静岡県富士山世界遺産センター
年報　2023.4－2024.3

目　次

館長挨拶 …… 1

1 概　要

1-1 沿革 …… 2
1-2 写真で見る2023.4-2024.3 …… 4

2 活動状況

2-1 永く守る
2-1-1 静岡県認定富士山世界遺産ガイド養成 …… 8
2-1-2 サポートボランティア制度 …… 10
2-1-3 富士山保全協力金 …… 11
2-1-4 富士山安全対策 …… 12
2-2 楽しく伝える
2-2-1 常設展示リニューアル …… 13
2-2-2 企画展 …… 15
2-2-3 アトリウム展示活動 …… 20
2-2-4 教育旅行受入 …… 22
2-2-5 出前講座 …… 24
2-2-6 館内講座 …… 26
2-2-7 世界遺産セミナー …… 28
2-2-8 富士山世界遺産コラム …… 29
2-2-9 ホームページ・SNS・YouTubeによる情報発信 …… 30
2-2-10 メール会員 …… 31
2-3 広く交わる
2-3-1 地域貢献・広域連携（富士山ネットワーク推進委員会）…… 32
2-3-2 視察受入 …… 33
2-3-3 国際シンポジウム …… 34
2-4 深く究める
2-4-1 巡礼路調査 …… 37
2-4-2 研究活動 …… 39
2-4-3 富士山学 …… 48
2-4-4 富士山と日本人 …… 49
2-4-5 資料収集 …… 50

3 施設・組織・予算

3-1 施設 …… 54
3-2 組織 …… 56
3-3 予算 …… 57

4 資　料

4-1 来館者数データ …… 58
4-2 2023年度の休館日 …… 58
4-3 公式オリジナルグッズ …… 59
4-4 報道実績 …… 61
4-5 来館者アンケート結果 …… 64
4-6 条例・規則 …… 71

館長挨拶

ご 挨 拶

富士山は2013年６月にカンボジアのプノンペンで開催されたユネスコ世界遺産登録委員会において、各国専門家の全員一致により、文化遺産として世界遺産リストに登録されました。その瞬間、出席した静岡・山梨両県知事や関係者たちの喜びようは感動的であり、国民の歓びも極めて大きかったことを覚えております。長く「日本の宝」であった富士山が、「富士山－信仰の対象、芸術の源泉」という正式の名称のもとに登録され、富士山は「世界の宝」となりました。

2023年は富士山の世界遺産登録10周年と記念すべき年でした。静岡県富士山世界遺産センターはこの機会を捉え、「世界の聖なる山と富士山」というテーマで国際シンポジウムを開催いたしました。

ドイツの元ユネスコ世界遺産センター長をはじめ、イタリア、中国及びニュージーランドの「聖なる山」の研究者・保全関係者に参加いただき、富士山をふくむこれらの聖なる山の歴史、特色、保全管理について語り合っていただき、今後の富士山の保全や後世への継承にとって、国際的な見地から議論を深めることができ、大変有意義なシンポジウムとなりました。

また、当センターでは、2017年12月の開館以来、富士山を「永く守る」ための諸活動の一つとして、「富士山学」の体系化と富士山の価値を探求する研究活動を実施してまいりました。これまでの研究成果を取りまとめるとともに、「富士山学」の現在地や富士山の普遍的価値の多様性について広く知っていただく機会を提供することを目的として、『富士山と日本人』という本を出版いたしました。

令和５年に紫綬褒章を受章した国文学の大家である渡部泰明博士や静岡県の川勝平太前知事など多くの研究者や関係者の協力の元にこのような本を出版することができましたことは、大変意義深いことであると思っております。この場を借りて厚くお礼申し上げます。

長らく続いていたコロナ禍による自粛等を経て、2023年は少しずつ日常を取り戻してきました。

当センターは、富士山の顕著な普遍的価値を後世に継承し、守っていくための拠点施設として、「聖なる山」、「美しき山」といった常設展示だけではなく、「美と祈りの霊峰富士」やシリーズ「江戸文化のなかの富士山」などの実物展示を中心とした企画展を開催することにより、開館以来130万人を超える来館者の方々をお迎えしてきました。御来館いただいた皆様には、富士山に親しみ、信仰の対象、また芸術の源泉としての富士山の素晴らしさに触れていただけたのではないかと思っております。

展示では、富士山と人との未来を考える展示ゾーン「受け継ぐ山」に明治時代から昭和初期の観光案内の鳥瞰図や企業のチラシ、同時代の富士山を撮影したステレオ写真を展示するなどリニューアルし、毎年少しずつではありますが、来館者の皆様に満足いただけるように工夫をし、改善しております。

このほか、企画展などの開催により、多くの方々に、古来から人々を魅了し続けてきた富士山の価値を再確認いただける機会を提供していくことで、常に進化する博物館として富士山の普遍的価値の継承に邁進してまいる所存です。

ここに、センターの2023年度の足跡を年報という形で取りまとめ、富士山という偉大な存在の持つ価値を、次の時代に繋いでいくための記録の一環と致しました。御活用いただければ幸いに存じます。

令和６年９月

静岡県富士山世界遺産センター
館長　　遠山　敦子

1　概　要

1-1 沿　革

2011年10月	基本構想策定委員会を設置
2012年３月	基本構想を策定
2012年11月	基本計画策定アドバイザーを設置
2013年３月	基本計画を策定
2013年６月	世界文化遺産登録決定
2013年８月	建設地を富士宮市宮町に決定
2014年３月	設計者を株式会社坂茂設計事務所へ決定
	展示基本計画を策定
2015年３月	実施設計完了
2016年３月	建築工事着手
2017年２月	2017年12月23日開館を公表
2017年７月	建築工事完成
2017年10月	設置管理条例議決
	展示工事完成
2017年12月	12月22日開館記念式典開催　12月23日開館
2018年２月	入館者10万人達成
2018年３月	シアター新番組「地の巻」上映開始
2018年７月	入館者30万人達成
2018年12月	入館者50万人達成
2019年１月	３階「育む山」展示リニューアル
2019年３月	シアター新番組「宙の巻」上映開始
2019年８月	富士山世界遺産センターふじっぴー誕生
2019年11月	三笠宮彬子女王殿下　地方事情御視察のため御来館
2020年３月	富士山世界遺産センター公式ハンドブック発行
2020年４月	新型コロナウイルス感染症拡大のため臨時休館（４月14日から５月31日まで）
2021年２月	２月20日観覧料支払いへのキャッシュレス決済導入
	２月28日来館者100万人達成
2021年11月	研究・収蔵スペースの増築工事完成
2022年４月	ミュージアムショップ・カフェリニューアル
2022年９月	高円宮妃久子殿下御来館
2022年12月	12月13日開館５周年記念式典・コンサート開催
	12月23開館５周年
2023年７月	７月１～３日富士山世界遺産登録10周年記念国際シンポジウム

基本コンセプト及び機能

静岡県富士山世界遺産センターは、世界遺産条約第５条（e）の趣旨に則り、富士山が持つ顕著な普遍的価値を次世代に継承し、「永く守る」拠点施設として整備された。

富士山を「永く守る」ためには、資産を適切に保護・管理するとともに、多くの人々が世界文化遺産としての富士山の価値について理解を深めることが必要となる。

そのため、富士山を「永く守る」活動に加え、富士山の価値を「楽しく伝える」活動やセンターの活動を通じて人々が「広く交わる」機会を創出する活動を展開する。さらに、これら「永く守る」「楽しく伝える」「広く交わる」の活動内容を奥深いものとするため、富士山の自然や歴史、文化等を「深く究める」活動を展開する。

また、他の研究機関等と連携した「深く究める」活動の成果及びセンターの諸活動を「連ねる」ことで、「富士山学」を体系化し、世界文化遺産「富士山」の価値を探究する活動を継続して実施する。

〈基本コンセプト及び機能概念図〉

永く守る

1 富士山の価値の次世代への継承～保護・管理～
- 富士山の包括的保存管理の拠点
- 市民活動との連携
- 富士山の保護・管理に携わる人材の育成

楽しく伝える

2 富士山の多彩な価値の伝達～展示・情報発信～
- 楽しく「伝える」展示
- 富士山情報の発信

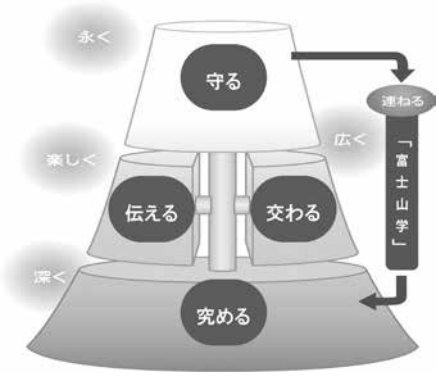
3 富士山の「楽習」機会の提供～学習支援～
- 学校教育との連携
- 生涯学習の支援・促進
- 富士山ライブラリーの整備

広く交わる

4 富士山を通じた交流機会の創出～交流促進～
- 観光交流
- 学術交流
- 文化・芸術交流

深く究める

5 富士山の価値の探求～調査研究～
- 富士山の総合的、学際的、国際的な研究活動の展開
- レファレンスサービスの提供



1-2 写真で見る2023.4-2024.3

富士山世界遺産登録10周年記念国際シンポジウム「世界の聖なる山と富士山」

日程：2023年７月１日(土)～３日(月)

企画展

美と祈りの霊峰（やま）富士山

会期：（前期）2023年４月29日～６月４日
　　（後期）2023年６月10日～７月３日

企画展
地層剥ぎ取り資料が語る富士山の噴火と崩壊
2023年７月22日～９月18日

企画展
富士を介して信を通じる
―平川義浩絵葉書コレクションにみる富士山の姿―
会期：2023年10月７日～12月３日

特別展
シリーズ江戸文化のなかの富士山Ⅵ
富士山　藝術の源泉
会期：2024年１月１日～2024年２月12日

企画展
第４回　絶景・秀景
富士山世界遺産写真コンテスト入賞作品展
会期：2024年２月23日～2024年３月24日

展示更新

2　活動状況

2-1 永く守る

2-1-1 静岡県認定富士山世界遺産ガイド養成

1　概　要

静岡県登録富士山世界遺産ガイドは、世界遺産「富士山」の顕著な普遍的価値及びその適切な保存管理について理解を深め、案内することができることを目的とし、2012年度に発足した。これまでに養成講座を８回実施し、262名が修了した。登録更新希望者を対象に２年毎に更新講座を実施し、その際の意向確認でこれまでに135名が登録を辞退・抹消（逝去含む）となり、2023年度末の登録者は127名である。

2　活動内容

・各構成資産における来訪者へのガイド
・教育機関、旅行業者等の依頼に基づいた添乗ガイド
・富士山をテーマとする各種講座等における講師
・富士山の価値や適切な保存管理の普及のための活動

3　更新講座

世界遺産ガイドとしての技量やモチベーションの維持・向上を目的として更新講座を実施している。例年、年度始めに実施計画日の中から対象者に希望調査を行い、年３～４回の更新講座を実施している。2023年度は、平成25・27年度登録者と、2022年度に受講予定であった平成24・26年度登録者を対象に、10月から12月にかけて４回講座を実施した。ガイドとしての技量をより高める機会とするため、構成資産でガイドをしている方から実際にガイドを受ける内容で実施したが、構成資産の現状を知ることができ、ガイドするうえでの心構えも学ぶことができると参加者からは好評であった。

実施日	参加者数	会　　場
10/29	8 名	白糸の滝
11/ 8	10名	
11/30	28名	富士山本宮浅間大社
12/ 2	11名	
2023年度更新者：57名		

4　養成講座

新たな富士山世界遺産ガイドを養成するため、2023年度に養成講座を再開した。11月 4 日、12日、26日の 3 日間で実施し、17名から受講申込があり、15名が修了した。（ 2 名は未履修講座があったため、2024年度に単位履修生となる予定。）

（更新講座の様子）

（養成講座の様子）

2-1-2 サポートボランティア制度

1 概　要

地域の人々が静岡県富士山世界遺産センターの日々の活動を支え、来館者とセンター、地域とセンターを結ぶ架け橋として活動する組織として、サポートボランティア制度を設けた。

2023年度は79名がサポートボランティアとして登録している。年齢層は高校生から80代までの幅広く、一般来館者誘導と館内イベントの補助を主に担当した。2023年度は「館内登拝ガイド」を新設し、養成研修を修了したガイド認定者が、一般来館者（１～５名）に、らせんスロープの映像や展望ホールを20分程度で案内する取り組みを実施した。

〈サポートボランティアの概要〉

区　　分	内　　容	
対　　象	高校生以上	
任　　期	１年（令和５年４月１日～令和６年３月31日）毎年更新の意思を確認	
登録人数	79人	
業務内容（通常）	来館者対応	一般来館者誘導（スロープ、シアター誘導等）、 館内ガイド（※要研修の受講）
	館内業務	館内イベント補助
	資料整理 ライブラリー補助	研究員の調査･研究に関する資料整理補助 富士山ライブラリーの司書補助
	環境美化	館外の環境整備補助、植込整備、雑草除去
条件等	旅費・報償費支給無し、ボランティア保険加入（県負担）、 ユニフォーム貸与	

2-1-3 富士山保全協力金

1 概　要

静岡県は、富士山の普遍的価値（信仰の対象、芸術の源泉など）を広く後世に継承するための意識醸成を理念に、2014年度から富士山保全協力金を受け付けている。当協力金は、富士山の環境保全や登山者の安全対策を進める事業に活用しており、2023年度は、山小屋トイレの改修、ライブカメラによる山頂気象情報の配信、ＡＥＤ設置等に活用した。

2 各登山口の協力金受付

区　分	富士宮口	須走口	御殿場口
対　象	五合目から先に立ち入る来訪者		
期　間	2023年７月10日～同年９月10日		
記念品	木札ストラップ（富士宮口：青、須走口：赤、御殿場口：緑）		

※県富士山世界遺産課において、インターネット・コンビニ受付も実施。

木札ストラップ

3 富士山保全協力金の受入状況

2023年は2022年度と比べて協力者数は23,889人増、協力金額は24,227,992円増となった。

区　分			2023		2022		2023－2022	
			７月10日(月)～９月10日(日)		７月10日(日)～９月10日(土)			
			人数（人）	金額(円)	人数（人）	金額(円)	人数（人）	金額(円)
現地	富士宮	五合目	25,361	25,294,404	10,970	10,880,981	14,391	14,413,423
		水ヶ塚	11,325	11,281,023	11,702	11,630,625	-377	-349,602
		小　計	36,686	36,575,427	22,672	22,511,606	14,014	14,063,821
	御殿場		7,725	7,648,156	5,463	5,149,346	2,262	2,498,810
	須　走		15,972	15,981,871	8,385	8,207,510	7,587	7,774,361
	小　計		60,383	60,205,454	36,520	35,868,462	23,863	24,336,992
インターネット等	インターネット		174	174,000	102	102,000	72	72,000
	コンビニ		210	210,000	32	32,000	178	178,000
	県庁受付		1,036	717,000	1,260	1,076,000	-224	-359,000
	小　計		1,420	1,101,000	1,394	1,210,000	26	-109,000
合　計			61,803	61,306,454	37,914	37,078,462	23,889	24,227,992

2-1-4 富士山安全対策

1 概　要

静岡県は、山梨県と連携し、富士登山における安全確保のため、富士山須走・吉田ルートの山頂から八合目までの登下山道の安全誘導、下山道の巡回や案内看板設置等の安全対策、八合目分岐点の道間違い対策を実施している。

2 須走・吉田ルート安全誘導員の配置

静岡県富士山世界遺産センターでは、2023年７月１日から2023年９月10日までの期間、富士山須走・吉田ルートの山頂から八合目までの登下山道の安全誘導と下山道の八合目分岐点での道間違い防止のため、延べ376人の安全誘導員を配置した。

3 富士山須走・吉田ルート下山道安全対策

静岡県富士山世界遺産センターでは、2014年の富士山須走ルート下山道九合目付近での落石による事故を踏まえ、2015年以降の富士山開山期間中、須走ルート山頂～八合目区間で、案内看板の設置や、土砂・石等の埋め戻し等の巡回業務などの安全対策を実施している。

2-2 楽しく伝える

2-2-1 常設展示リニューアル

受け継ぐ山（民俗分野）リニューアル：「人々の心に根付く富士山」

1 概　要

富士山は人々の生活に密接に結びついてきた山であり、日常のくらしや各種のメディアの中に様々な形で登場する。今回の展示リニューアルでは、従来の「人々の心に根付く富士山」のタッチパネルモニター内に、新たな画像を追加し、人々と富士山との繋がりをより多角的に紹介した。あわせて、展示更新を前提とした実物資料の展示スペースを設け、リピーターの方々にも楽しんでいただける工夫をするとともに、約100年前に撮影されたステレオ写真を立体視することが可能なコンテンツを設け、体験を通して富士山の姿をより効果的に知っていただく工夫を施した。

2 展示構成

（1）コンテンツ①

従来の「人々の心に根付く富士山」タッチパネルモニター内の、「くらしの中の富士山」、「メディアの中の富士山」のそれぞれのコンテンツについて、新たな画像とその解説を追加した。

〈追加画像〉

くらしの中の富士山

・白糸（富士宮市）の水田
・大淵（富士市）の茶畑
・「紅富士」（ブランドニジマス）ロゴマーク
・絵入りトイレットペーパー
・富士宮秋祭り
・ブルドーザーによる山頂山小屋への物資運搬

メディアの中の富士山

・第二次昭和切手
・チャレンジコイン
・引札（一富士二鷹三茄子）
・年賀状（松竹梅と富士山）

（2）コンテンツ②

人々の心に根付く富士山に関する実物資料を展示することができるコーナーを設けた。なお、展示資料については、季節ごとに更新することを予定している。

〈展示資料（令和６年１月～３月）〉
・観光パンフレット「国立公園　富士と大宮」（昭和６年大宮町役場発行）
・引札「一富士二鷹三茄子」（津市岩田町桔梗屋店発行）

（３）コンテンツ③

20世紀初頭に撮影された20枚の富士山のステレオ写真を、ステレオビューワーと３Ｄ赤青メガネ（アナグリフメガネ）を用いて、立体的に見ることが出来るコンテンツを作成した。

３ 写　真

写真１　全景

写真２　コンテンツ画像

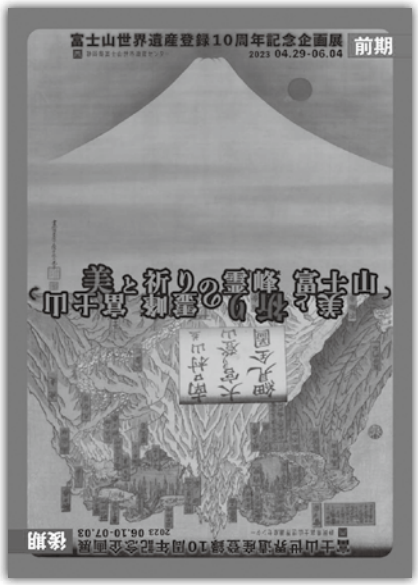
2-2-2 企画展

○企画展
「美と祈りの霊峰　富士山」

会　　期　（前期）2023年４月29日～６月４日
　　（後期）2023年６月10日～７月３日
観 覧 料　無料（常設展観覧料のみで観覧可）
入場者数　25,545人（期間中の常設展チケット発券枚数）
概　　要

2023年は、2013年６月にカンボジア国プノンペンで開催された第37回世界遺産委員会において、富士山が「富士山―信仰の対象と芸術の源泉」という名称で世界遺産登録されて10周年の節目にあたる。

当館も開館から６年目に入り、研究や展示と一体である富士山に関わる諸分野の資料収集も、着実に歩みを進めてきた。また、富士山に深い関心を寄せてきた方々からの特色ある寄贈資料も、充実したコレクション形成の一翼を担っている。今回は、日々進化（深化）し続けていく当館の収蔵品の中から、美（芸術）と祈り（信仰）をテーマに、前期・後期にわたる収蔵品展を開催した。



【主な出展作品】
（前期）
・狩野常信筆、近衛家熙賛「秋景富士三保清見寺図」絹本着色　一幅、元禄12年
・土佐光貞筆、日野資枝賛「四時富士図」絹本墨画、一幅、江戸時代後期
・土佐光孚筆「富士に旭日図」絹本着色　一幅、江戸時代後期
・「富士三保清見寺図屏風」紙本金地着色、六曲一双、文化13年～文政11年
　など
（後期）
・「富士参詣曼荼羅」（井出政久氏旧蔵コレクション）

・「富士山立体絵図（傘図）
・「三国第一冨士山禅定図」（佐野宮峰氏旧蔵コレクション）
・「須走中心富士細密絵図」（小林謙光氏旧蔵コレクション）
・「南口村山並大宮ヨリ登山細見絵図」
・「The capital of the tycoon １＆２」
・「富士山本宮浅間大社旧奥宮部材」
・「富士山頂上採取古銭」（鈴木雅史氏旧蔵コレクション）
　など、計28点を展示。

【関連イベント】
・館内講座
　５月21日14：00～　センター研修室
　松島仁（静岡県富士山世界遺産センター教授）
・ギャラリートーク
　（前期）４月29日（土・祝）、６月４日（日）担当：松島
　（後期）６月10日（土）担当：井上、６月24日（土）担当：大高

○企画展
「地層剥ぎ取り資料が語る富士山の噴火と崩壊」

会　　期　2023年７月22日（土）～９月18日（月祝）
入場者数　28,175人（期間中の常設展チケット発券枚数）
概　　要

富士山は「噴火のデパート」と称されるほど、その生い立ちの中で様々なタイプの噴火を引き起こしてきた。それと同時に、富士山は日本列島にある数多く火山の中で最も急速に成長してきた火山であり、これまでに少なくとも３回、その急峻な山体が一気に崩れ落ち、その残骸が大量の土石となって麓に押し寄せる破壊的なイベント（山体崩壊）が発生した。

これらの噴火や崩壊の痕跡は、堆積物として残り、工事現場などで地層として露出することで私たちの目の前に現れることがある。本企画展では、富士山周辺（富士山麓・神奈川県西部）で採取した地層剥ぎ取り資料を展示し、富士山で繰り返されてきた様々なタイプの噴火と崩壊について、その歴史とそれらのメカニズムについて解説した。

【主な出展作品】
・宝永テフラ（火山灰資料）採取地：東京都港区芝公園遺跡（相模原市立博物館所蔵）他４点
・宝永テフラ（地層剥ぎ取り資料）採取地：神奈川県茅ヶ崎市東海岸（神奈川県立生命の星地球博物館所蔵）
・宝永テフラ（地層剥ぎ取り資料）採取地：静岡県駿東郡小山町柳島（湯船城跡地）（静岡県立埋蔵文化財センター所蔵）
・過去3500年間の長大連続資料（地層剥ぎ取り資料）採取地：駿東郡小山町大御神（静岡県富士山世界遺産センター所蔵）※６点組
・大鹿窪遺跡の遺構壁面に露出する過去17,000年間の降下テフラ層（地層剥ぎ取り資料）採取地：富士宮市大鹿窪（富士宮市埋蔵文化財センター所蔵）
・風祭川火砕流堆積物及び炭化木片（地層剥ぎ取り資料、木片資料）採取地：富士宮市山宮（静岡県立埋蔵文化財センター所蔵）
・火山麓扇状地堆積物（地層剥ぎ取り資料）採取地：富士宮市沼久保（静岡県富士山世界遺産センター所蔵）※２点組

【関連イベント】
・公開講座
2022年８月20日：富士宮市立大宮小学校
演題：富士山の火山噴出物（スコリア）について、座学とお菓子化で腹オチしよう！
講師：鈴木美智子氏（ジオガシ旅行団 代表）
2022年９月17日：センター研修室
演題：地層剥ぎ取り標本が伝える大地の記憶－神奈川県西部の大地・火山の成り立ち
講師：石浜佐栄子氏（神奈川県立生命の星・地球博物館主任学芸員）
・ギャラリートーク
2022年７月22日・８月６日・８月26日・９月10日・９月18日（各日午前・午後１回）
講師：小林　淳（静岡県富士山世界遺産センター 教授）
・連携企画展
2022年７月15日～10月22日
ふじのくに地球環境史ミュージアム企画展「知られざる富士山」

○企画展
「富士を介して信を通じる―平川義浩絵葉書コレクションにみる富士山の姿」

会　　期　2023年10月７日（土）～2023年12月３日（日）
観 覧 料　無料（常設展観覧料のみで観覧可）
入場者数　25,957人（期間中の常設展チケット発券枚数）
概　　要
　日本屈指の絵葉書コレクターである平川義浩氏（兵庫県宝塚市在住）の所蔵品のうち、富士山を題材にした絵葉書のコレクション（1834点）が令和4年度に静岡県富士山世界遺産センターに一括で寄贈されることとなった。

そのコレクションは、私製葉書の発行が認められた明治33年（1900）から昭和初期にかけて製作されたものから構成されており、富士山の写真や絵画を印刷した、いわゆる風景絵葉書にとどまらず、富士山を様々な形で意匠化し、広告や宣伝、プロパガンダ、芸術活動などに用いられた美術絵葉書にも及んでいるという点において、他に例を見ない資料群である。

本企画展は、平川義浩氏からの寄贈を記念して開催するものであり、富士山絵葉書の展示を通じて、富士山の通俗性や大衆化の過程を広く伝えていくことを目的とする。

【展示構成】

以下の15のテーマに基づき、コレクション全1,834点の内、661点を展示。

1　写真と富士山
2　広告と富士山
3　風景画と富士山
4　年賀状の富士山
5　装飾図案と富士山
6　匠技・巧芸の富士山
7　記念事業と富士山
8　見立ての富士山
9　乗り物と富士山
10　こどもたちと富士山
11　観光案内の富士山
12　浮世絵の富士山
13　物語と富士山
14　外国製の富士山
15　富士山の案内図

【関連イベント】

・公開講座

2023年10月15日（日）：午後２時～午後３時（事前申込30名）

論題:「絵葉書で愛でる富士山」

講師:平川義浩氏（日本絵葉書会）

※公開講座にあわせて、平川氏に知事感謝状を贈呈

・ギャラリートーク（担当:井上卓哉）

2023年10月７日（土）午後、10月28日（土）午後、10月29日（日）午前・午後、11月11日（土）午前・午後、11月11日（土）午前・午後、11月12日（日）午後、11月25日（土）午前・午後　計９回開催

○企画展

第４回 絶景・秀景 富士山世界遺産写真コンテスト入賞作品展

会　　期　2024年２月23日～2024年３月24日
観 覧 料　無料（常設展観覧料のみで観覧可）
入場者数　17,421人（期間中の常設展チケット発券枚数）
概　　要

静岡県では「富士山の日」の推進運動の一環として、2019年度まで「秀景ふるさと富士写真コンテスト」及び写真展を10回開催した。2020年度からは公益社団法人静岡県観光協会、NHK静岡放送局と共催し、これまでの全国各地の「ふるさと富士（見立て富士）」を撮影した「秀景ふるさと富士」部門に加え、静岡県側から「富士山」を撮影した「絶景しずおか富士山」部門の２部門からなる「絶景・秀景 富士山世界遺産写真コンテスト」を実施してきた。本企画展は４回目の入賞作品展となり、応募総数935点の中から、審査委員長沼田早苗氏、審査委員織作峰子氏、西田省三氏が厳選した100点の入選作品を展示した。

【出展作品】

・「絶景しずおか富士山」部門
　グランプリ　「高原の朝」島野孝一（撮影場所:猪之頭（富士宮市））
　NHK静岡放送局長賞　「春暁」稲　朋和（撮影場所:東山湖（御殿場市））
　静岡県観光協会長賞　「躑躅咲く玄岳」村松俊夫（撮影場所:玄岳（函南町））
　他57作品
・「秀景ふるさと富士」部門
　グランプリ　「春風に吹かれて」畠山奈津美（岩手山（南部富士）岩手県）
　静岡県富士山世界遺産センター館長賞　「春の気配」櫻井勝美（榛名山（榛名富士）群馬県）
　他38作品

絶景しずおか富士山部門グランプリ

秀景ふるさと富士部門グランプリ

2-2-3 アトリウム展示活動

静岡県富士山世界遺産センター１階アトリウムでは、様々な機関と連携し、作品展示等を行った。

（１）富士市

（2023年９月１日～７日）

富士市から見える美しい富士山を広くPRするために毎年開催している「富士山百景写真コンテスト」の上位入賞作品8点を展示した。また、周遊を促すため、撮影場所の案内パンフレット等を配架した。

（２）山梨県

（2023年９月15日～28日）

「富士山憲章」の普及定着を図り、環境保全に取り組む山梨県富士山レンジャーの活動を周知する機会として「富士山レンジャー写真展」を開催した。

（３）福岡県

（2023年11月１日～2024年２月29日）

世界遺産「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群から日本の信仰・文化をたどる「ハルカムナカタ」の冊子を配布するとともに、関連パネルを展示した。当センターを始めとした日本各地の歴史文化施設13施設が参加し、「宗像・沖ノ島から日本の信仰・文化をたどる」をテーマとした多言語（日英）で対応した。

（4）山梨県

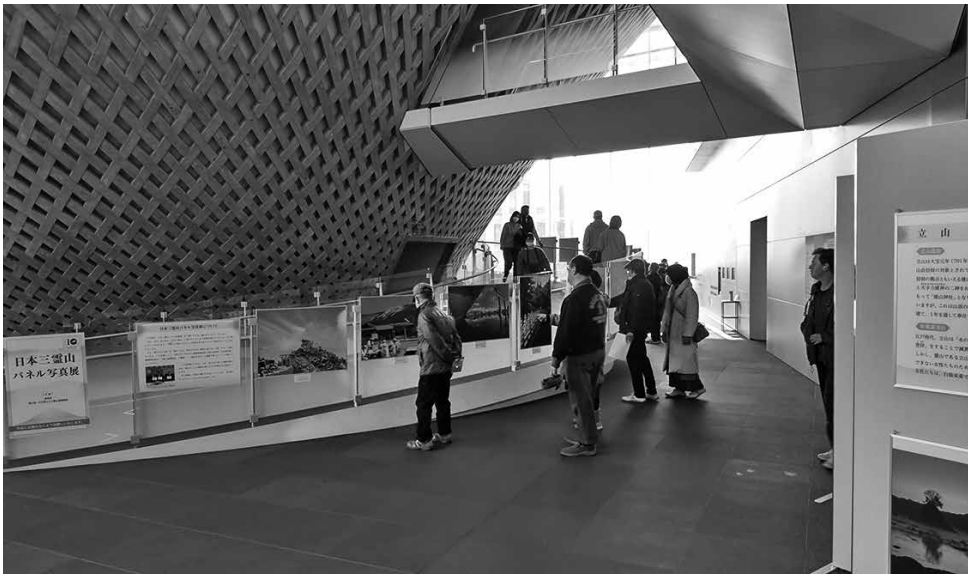
（2023年12月２日～８日）

富士山憲章事業の一環として、山梨県が開催した富士山に宛てた年賀状コンクールの入賞・入選作品巡回展を開催した。

（5）富山県・石川県

（2023年12月19日～2024年１月15日）

日本三霊山と称される立山・白山・富士山のある富山県・石川県・静岡県が締結した「三霊山連携協定」に基づき、立山・白山・富士山の美しい風景写真のほか、霊山としての側面を感じさせる写真を展示した。



2-2-4 教育旅行受入

1 教育旅行の受入

静岡県富士山世界遺産センターの基本コンセプトのひとつ「楽しく伝える」として、富士山の「楽習」機会の提供“学習支援”が位置付けられている。その一環としてセンターへの教育旅行団体の誘致促進に取り組んでいる。

来館時の説明

5階展望ホールの修学旅行生徒

2 受入実績概要

2023年度は、下表のとおり、静岡県内を中心に、首都圏、中部圏のほか海外から、延べ147校の学校等団体の来館があった。

教育旅行来館数（2023年4月1日~2024年3月31日） （単位：件）

	静岡県内			県外			※4 海外
	東部	中部	西部	※1 首都圏	※2 中部圏	※3 その他	
保育園 幼稚園	7	0	0	0	0	0	0
小学校	14	21	1	4	0	0	0
中学校	16	0	6	15	1	5	0
高等学校	11	4	2	6	1	7	3
大学	0	0	0	8	3	1	1
専門学校 各種学校	5	1	1	2	0	1	0
小計	53	26	10	35	5	14	4
	89			54			
合計	147						

※1…東京都（20）、山梨県（8）、千葉県（3）、神奈川県（2）、埼玉県（1）、茨城県（1）
※2…愛知県（4）、三重県（1）
※3…大阪府（5）、大分県（4）、京都府（2）、新潟県（1）、滋賀県（1）、長崎県（1）
※4…アメリカ（2）、タイ（1）、オーストラリア（1）

また、2023年度の来館者159,599人（うち、観覧券発券数152,009枚）のうち、小人の入場券発券数17,672枚（全発券数の11.6％）、学生の入場発券数9,433枚（全発券数の6.2％）であった。その内、教育旅行での受付人数は小人（幼稚園・保育園・小学校・中学校）6,253人（小人発券数の35.4％）、学生（高等学校・大学・大学院・専門学校等）2,258人（学生発券数の23.9％）であった。（※チケット区分 ［小人］15歳未満の児童・生徒、［学生］15歳以上の生徒・学生）

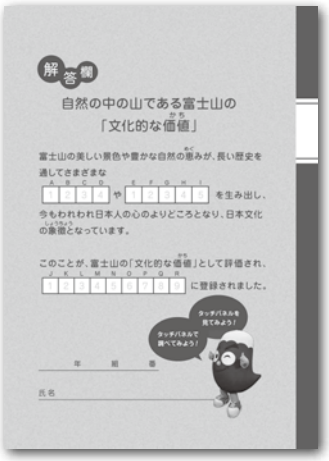
教育旅行団体来館時に提供するクイズシート（小学校向け：Ａ４両面印刷）

ワークシート（中学～高等学校向け：Ｂ４二つ折見開き）

（表表紙）

（見開き）

（裏表紙）



2-2-5 出前講座

1 富士山世界文化遺産出前講座の概要

富士山の自然や文化、世界遺産についての基礎知識をわかりやすく説明し、富士山についての理解と関心を高め、世界遺産「富士山」の後世継承への気運を高めることを目的として、富士山世界文化遺産出前講座を実施している。小・中・高校の総合的な学習の時間や、特別活動における野外活動の事前学習のほか、生涯学習センター等各種団体からの依頼を受けて講師を派遣して講座を実施している。2023年度は、一般・学校あわせて92件の利用があり、過去最多の利用件数となった。

2 地区・対象別実施数・人数（2023年４月１日～2024年３月31日）

〈一般〉

	地　区				合計
	東部	中部	西部	他	
件数（件）	14	26	6	7	53
人数（人）	746	581	148	341	1,816

〈学校〉

	地区別件数（件）					人数（人）
	東部	中部	西部	県外	合計	
小学校	6	7	0	1	14	1,322
中学校	6	0	1	2	9	1,420
高　校	5	0	2	0	7	480
特別支援	1	0	0	3	4	39
専　門	0	1	0	0	1	30
大　学	0	3	1	0	4	255
合　計	18	11	4	6	39	3,546

3 分野・タイトル別実施数

〈富士山入門〉（担当：美澤主幹・長嶋主査）	件数（件）			人数（人）
	学校	一般	合計	
ふじさんってどんな山？	0	2	2	3,623
世界遺産の富士山を学ぼう	28	9	37	
合　計	28	11	39	

〈各論　文化：美術〉（担当：松島教授）

	件数（件）			人数（人）
	学校	一般	合計	
ふじさんを描いてみよう！	0	2	2	433
日本の美と心－富士山	0	1	1	
徳川将軍と富士山	0	9	9	
海を越えた富士山－外国に遣わされた絵画と工芸	2	5	7	
合　計	2	17	19	

〈各論　自然科学：火山・地質・防災〉（担当：小林教授）

	件数（件）			人数（人）
	学校	一般	合計	
静岡県の活火山を比較してみよう	0	1	1	263
富士山の噴火史と火山防災（ハザードマップの読み方）	3	3	6	
富士山に刻まれた噴火の痕跡を地形から読み解く	0	0	0	
富士山の湧水・地下水	0	1	1	
合　計	3	5	8	

〈各論　歴史：信仰〉（担当：大高教授）

	件数（件）			人数（人）
	学校	一般	合計	
富士山信仰を歴史から学ぶ	5	6	11	756
富士山の参詣曼荼羅の絵解き	0	2	2	
富士山の縁起（えんぎ）を知る～赫夜姫（かぐやひめ）	0	5	5	
富士山の「合目」標記の変遷	0	0	0	
合　計	5	13	18	

〈各論　民俗〉（担当：井上准教授）

	件数（件）			人数（人）
	学校	一般	小計	
富士山のふもとで生きる	1	1	2	287
頂に挑む～登山案内図や登山記にみる富士登山	0	2	2	
富士山の御札	0	1	1	
日本の象徴－富士山	0	3	3	
合　計	1	7	8	

総合計
92件 （5,362人）

2-2-6 館内講座

1 館内講座の概要

富士山について様々な文化から学ぶ機会の提供を目的として、一般の方々を対象に館内講座を実施した。毎月第３日曜日を開催基準日に設定し、センターの研究員や外部の専門家と一般の方々が、富士山を題材に「広く交わる」ことができる講座を開催してきた。

2 実施状況

※８月の講座は定員20名、２・３月は定員80名、他の講座は定員30名

開催日	講　座　名	講　　師	人数（名）
４月16日（日）	アメリカ人の目で見た富士山と日本文化	写真家・報道カメラマン ビル・ライオンズ	28
５月21日（日）	「美と祈りの霊峰　富士山」展関連講座 徳川将軍と富士山	静岡県富士山世界遺産センター 学芸課長兼教授　松島 仁	21
６月18日（日）	富士北麓の環境問題	山梨県富士山レンジャー 二宮 準子	10
７月16日（日）	富士山の動物と植物	富士自然観察の会 運営委員　長谷川 望	18
８月20日（日）	「地層剥ぎ取り資料が語る富士山の噴火と崩壊」展関連講座 富士山の火山噴出物について、座学とお菓子化で腹オチしよう！	ジオガシ旅行団　鈴木 美智子	17
９月17日（日）	「地層剥ぎ取り資料が語る富士山の噴火と崩壊」展関連講座 地層剥ぎ取り標本が伝える大地の記憶 ―神奈川県西部の大地・火山の成り立ち：平成29年度特別展より―	神奈川県立生命の星地球博物館 石浜 佐栄子	28
10月15日（日）	「富士山を介して信を通じる～平川義浩コレクションにみる富士山の姿」展関連講座 絵はがきで愛でる富士山	富士山絵葉書コレクター 平川 義浩	16
11月19日（日）	富士山頂で暮らす	富士山本宮浅間大社 権禰宜　鈴木 雅史	19
12月17日（日）	富士山麓にうまれた町－大宮と吉田－	山梨県立富士山世界遺産センター 調査研究スタッフ　堀内 亨	28
１月21日（日）	「シリーズ江戸文化のなかの富士山６ 富士山　藝術の源泉」展関連講座 幕末・明治期の政治外交史のなかの富士山	静岡県富士山世界遺産センター 学芸課長兼教授　松島 仁　他	29

開催日	講　座　名	講　　師	人数（名）
2月18日（日）	富士山のおもしろお天気学	ヤマテン 代表取締役 猪熊 隆之	68
3月17日（日）	限界の先で感じた事	山岳救助隊員・山岳ランナー 望月 将悟	72
		合　　計	354

公開講座の様子

2-2-7 富士山世界遺産セミナー

1 概要

静岡県富士山世界遺産センターで実施している調査・研究や、富士山に係る調査・研究の成果を広く社会に還元するため、富士山世界遺産セミナーを開催している。2023年度は浜松市において第14回目のセミナーを開催した。

2 2023年度開催実績

開催日	共催市町・ 共催企業 （会場）	テーマ・内容	参加人数
11月23日 （木・祝）	浜松市・ （株）図書館流通センター （浜松市福祉交流センター）	『富士山のふもとに生きる～金原明善と富士山麓の生業』 趣旨説明 井上　卓哉（静岡県富士山世界遺産センター） 講演①「金原明善と富士山」 金原　利幸（明善記念館　館長） 講演②「里山としての富士山～特に農業用水に注目して」 中山　正典（静岡県立農林環境専門職大学准教授）	85人

3 浜松市におけるセミナーの様子

ポスター

会場の様子

2-2-8 富士山世界遺産コラム

1 概要

2021年度まで発行・ホームページで公開していた『世界遺産ニュースレター』に代わり、2022年度から『富士山世界遺産コラム』をセンター公式ホームページで公開するとともにメールマガジン登録者に配信し、センター研究員の研究成果や富士山に関わる情報を届けている。

2023年度は、毎月、発行しホームページで公開した。

2 実　績

配信･公開時期(号数)	内　　容	担当者
2023年４月（第11号）	ハーバート・G・ポンティングと富士山 新規収集資料「Japan through the stereoscope」をめぐって	井上卓哉 准教授
2023年５月（第12号）	須走口登山道の丁目石	大高康正　教授
2023年６月（第13号）	私と富士山の関わり	滝正晴　副館長
2023年７月（第14号）	御威光と金 ―静岡県富士山世界遺産センター・徳川記念財団共同調査研究ノート―	松島　仁 学芸課長兼教授
2023年８月（第15号）	富士山噴火の痕跡を巡る（その２） ―富士山東麓に出現した巨大露頭にみえる富士山の爆発的噴火と山体崩壊―	小林 淳　教授
2023年９月（第16号）	世界遺産はいつどのように学ぶのか	美澤綾子　主幹
2023年10月（第17号）	絵葉書の効能と平川義浩富士山絵葉書コレクション	井上卓哉　准教授
2023年11月（第18号）	静岡市域に伝わる富士参詣の習俗と法器草(オニバス)	大高康正　教授
2023年12月（第19号）	富士宮「地学さんぽ」　３時間コース	美澤綾子　主幹
2024年１月（第20号）	明治の富士山と狩野派 ―瀧和亭・狩野永悳立信・野口幽谷筆「住吉富士吉野図」をめぐって―	松島　仁 学芸課長兼教授

配信・公開時期（号数）	内　　容	担当者
2024年２月（第21号）	富士山噴火の痕跡を巡る（その３） ―田貫湖岩屑なだれ：富士山の残骸が作る地層と地形―	小林 淳　教授
2024年３月（第22号）	ライブラリーで感じる富士山の魅力	長嶋昌和　主査

2-2-9 ホームページ・SNS・YouTubeによる情報発信

静岡県富士山世界遺産センターでは、デジタル社会のより一層の推進等、センターを取り巻く環境の激変に対応するべく、インターネットにおける情報発信の手段において、ホームページおよびfacebookのほか、X（旧Twitter）・Instagram・YouTubeを開設し、情報発信力の強化を図っている。

ホームページでは主に、企画展やイベントの情報を、SNSでは主に、イベント開催実績などタイムリーな出来事を発信した。

ＨＰアドレス：https://mtfuji-whc.jp/
Facebookアドレス：https://www.facebook.com/TheFujisanWHC
Xアドレス：https://x.com/Mtfujiwhc3776
Instagramアドレス：https://www.instagram.com/mtfuji_whc_shizuoka/
YouTubeアドレス：https://www.youtube.com/channel/UCOpJNr22jCPxVNFJPsxbf8A

（2024年３月31現在）

	HP	Facebook	X （旧Twitter）	Instagram	YouTube
アクセス・登録者数	204,341	1,858	960	1,822	22

2-2-10 メール会員

1 概要

静岡県富士山世界遺産センターでは、企画展や各種イベント情報等、センターの最新情報をメールマガジンで配信するメール会員の募集・運用を行っている。毎月１日に発信。

会員数1,505人（2024年３月31日現在）

募集アドレス
https://mtfuji-whc.jp/mailmagazine/

【2024.2.1号】
静岡県富士山世界遺産センターメールマガジン

静岡県富士山世界遺産センター

＜今月号のラインナップ＞
▼ 富士山の日無料開放のお知らせ
▼ 特別展・企画展のご案内
▼ 館内イベントのご案内
▼ 公開講座のご案内
▼ 今月の富士山世界遺産コラム

＼富士山の日(2/23)は無料開放／

2月23日（金・祝）は富士山の日！
当センターでは、全てのご来館者様の観覧料を無料とします。
ぜひこの機会にご来館ください。

★イベントなど
館内クイズラリー開催
「第４回絶景・秀景 富士山世界遺産写真コンテスト入賞作品展」スタート

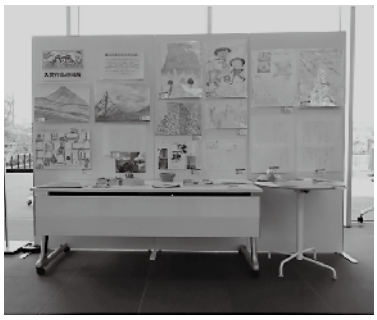
特別展（1/1～2/12）
シリーズ江戸文化のなかの富士山６
富士山 藝術の源泉
前期＞1月1日～1月16日　後期＞1月18日～2月12日

2-3 広く交わる

2-3-1 地域貢献・広域連携（富士山ネットワーク推進委員会）

1 概　要

地域貢献、富士山周辺の博物館施設との広域連携を目的に、静岡県富士山世界遺産センターは、2018年度から「富士山ネットワーク推進委員会（以下、富士山ネットワーク）」に加盟している。「富士山ネットワーク」とは富士山を中心に点在する博物館関係施設が、サービスの向上と効果的なＰＲを目指して1993年に組織したもので、「富士山かぐや姫ミュージアム」「富士山樹空の森」「奇石博物館」「富士サファリパーク」「富士山こどもの国」と当センターの６館園が加盟している。



巡回展の様子（１階アトリウム）

館園長会議	書面決裁で実施。
ぐるりんコンテスト	夏休みに小学生を対象に、作文、絵日記、工作などの作品を募集する「夏休み富士山ぐるりんコンテスト」、同コンテスト審査会、表彰式、入賞作品の各館園での巡回展を行なった。また、入賞作品集を作成した。
PRイベント	各館のイベントに出展し、クイズや体験ブースを設置するＰＲ活動を実施した。
その他	PR方法として、SNSを活用した館園写真掲載等を継続的に行った。

2 主な活動

月　日	内　容（※定例会は主なもの）	場　所　・　備　考
４月	館園長会議	※書面決済にて実施。
〈定例会〉 ４月12日 ５月17日 ６月14日 ７月12日 ９月６日 10月12日 11月15日 12月14日 １月11日 ２月16日 ３月15日	〈定例会内容〉 館園長会議調整、準備他 「ぐるりんコンテスト」の準備他 PRイベントの報告と確認他 「ぐるりんコンテスト」広報について確認他 ※８月実施せず 「ぐるりんコンテスト」審査会他 「ぐるりんコンテスト」表彰式　最終確認 PRイベントの報告、今年度事業の中間報告 次年度事業計画、予算の検討 ぐるりんコンテスト巡回展について確認他 ぐるりんコンテスト作品集作成について他 次年度事業計画の確認他	〈定例会開催場所〉 富士山樹空の森（４月） 奇石博物館（５月） 富士サファリパーク（６月） 富士山こどもの国（７月） 富士山かぐや姫ミュージアム（９月） 奇石博物館（10月） 富士山世界遺産センター（11月） 富士山樹空の森（12月） 奇石博物館（１月） 富士山かぐや姫ミュージアム（２月） 富士山こどもの国（３月）
10月中旬～ ３月中旬	「ぐるりんコンテスト」入賞作品の巡回展示	加盟館園 ※富士山世界遺産センター最終

2-3-2 視察受入

1 概　要

2023年度の自治体の世界遺産及び施設運営関係部署等による視察、観光関係等の企業・各種団体の視察は、令和４年度より総件数は11件増加し46件、総人数も156人増え639人を受け入れた（前年の令和４年度は35件、483人）。

特に「民間」が８件から17件へと増えており、うち14件が国内外からのファムトリップ（旅行会社、メディアや教育機関による下見的な視察）となっており、今後の送客が期待できる。

（１）件数　（単位：件）

年月	行政・議会							民間	その他団体	合計
	静岡県	県内市町	国	他県	海外（国）	海外（自治体）	小計			
2023年４月計				2			2		1	3
５月計					1	2	3	1		4
６月計						1	1	1		2
７月計	2						2	1	1	4
８月計				1			1		1	2
９月計								4	1	5
10月計				1		1	2		2	4
11月計				4		1	5	3	2	10
12月計			1			1	2	2		4
2024年１月計								2		2
２月計					1		1	2	1	4
３月計	1						1	1		2
計	3		1	8	2	6	20	17	9	46

（２）人数　（単位：人）

年月	行政・議会							民間	その他団体	合計
	静岡県	県内市町	国	他県	海外（国）	海外（自治体）	小計			
2023年４月計		3		5			8	66	10	84
５月計	4			17		30	51	6	8	65
６月計	0					3	3		6	9
７月計	14						14	3	84	101
８月計	1			4		4	9	1		10
９月計		1					1	8	14	23
10月計	2	6		25		1	34		30	64
11月計	13	3		43		15	74	31	68	173
12月計	1		6			7	14	10		24
2024年１月計								7		7
２月計	5	4			11		20	25	27	72
３月計	3						3	4		7
計	43	17	6	94	11	60	231	161	247	639

2-3-3 国際シンポジウム

富士山世界遺産登録10周年記念国際シンポジウム「世界の聖なる山と富士山」

富士山世界遺産登録10周年を記念し、今後の富士山の保全管理や世界遺産としての顕著な普遍的価値について広く発信することを目的とした国際シンポジウム「世界の聖なる山と富士山」が開催された。

世界遺産に登録されている海外の山岳研究者等の参加の下、研究成果に関する講演やパネルディスカッションを通じて、世界遺産富士山をはじめとする世界各国の聖なる山のこれからの保存や活用のあり方について討論が行われた。

国際シンポジウム概要

項　目	内　容
日　時	令和５年７月１日（土）　９時30分～15時50分 令和５年７月２日（日）　10時15分～16時00分
場　所	富士市文化会館ロゼシアター　小ホール（富士市蓼原町1750）
出　演	７月１日（土） 基調講演 　メヒティルド・ロスラー（元ユネスコ世界遺産センター長） 　「世界遺産と聖なる山」 講演 　鈴木正崇（慶応義塾大学名誉教授） 　「山の信仰と日本人」 　稲葉信子（筑波大学名誉教授） 　「世界文化遺産としての富士山」 　松島仁（静岡県富士山世界遺産センター教授／公益財団法人徳川記念財団特別研究員） 　「富士山－藝術の源泉として－」 　大高康正（静岡県富士山世界遺産センター教授） 　「富士山の巡礼路調査の概要～静岡県富士山世界遺産センターの研究成果」 　パオロ・コッツォ（トリノ大学歴史学部教授） 　「イタリア　ピエモンテとロンバルディアの聖なる山々：信仰、芸術、景観の相互におけるユネスコ世界遺産の歴史、特徴、評価」 ７月２日（日） 講演 　テイム・マルコム（ニュージーランド政府自然保護省条約関係局副局長）＊ビデオメッセージ 　井上卓哉（静岡県富士山世界遺産センター准教授） 　「ニュージーランド・トンガリロの聖なる山々」 　チャーリー・ラヒリ（ニュージーランド外務省マオリ政策アドバイザー） 　「タウランガのマオリについて（マオリ族とマウンガヌイ山との精神的な繋がりについて）」　＊オンライン講演 　郭旃（元中国イコモス副委員長） 　「泰山と中国の聖なる五山」 討論　〈パネルディスカッション〉 　コーディネーター：稲葉信子 　パネリスト：メヒティルド・ロスラー、鈴木正崇、松島仁、 　　パオロ・コッツォ、郭旃
主　催	静岡県富士山世界遺産センター
参加者数	374人

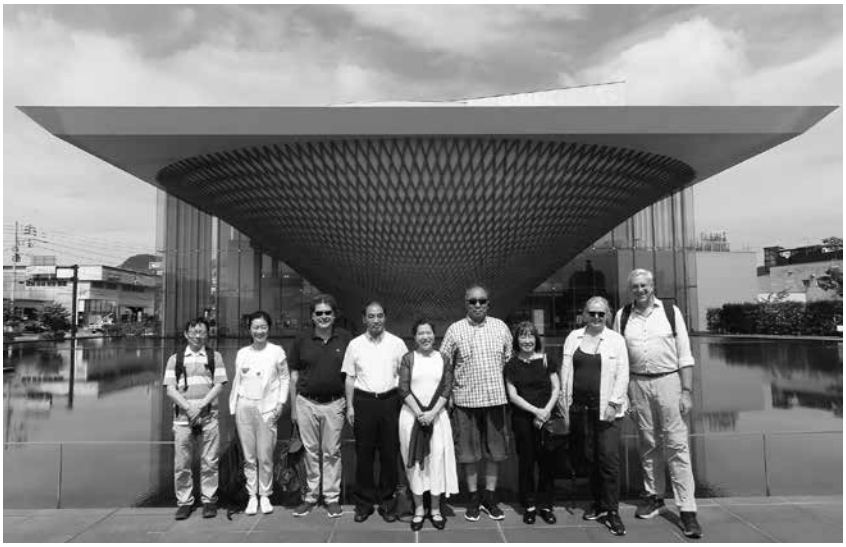
遠山敦子館長挨拶

基調講演

パネルディスカッション

エクスカーション概要

項　目	内　容
日　時	令和５年７月３日（月）　９時00分～17時15分
概　要	国際シンポジウムの講演者と関係者と対象としたエクスカーションで、世界遺産センターや富士山本宮浅間大社等を訪問。
出　演	訪問先 　静岡県富士山世界遺産センター 　富士山本宮浅間大社 　マウントフジ里山バケーション 　白糸の滝 　富士高砂酒造



エクスカーション
（静岡県富士山世界遺産センター）

エクスカーション
（マウントフジ里山バケーション）

2-4 深く究める

2-4-1 巡礼路調査

1 概　要

静岡県（事務局：静岡県富士山世界遺産センター）では、これまで総合調査が実施されていない登山道及び山麓の構成資産間を結ぶ巡礼路の研究計画を策定するとともに、巡礼路等の調査を実施するため、2015年に考古学、歴史学、民俗学、美術史といった各分野の学識者で構成される「富士山巡礼路調査委員会」を設置した。

2015年度から2018年度にかけては、小山町との連携の下に須走口登山道の調査を実施し、2017年度から2020年度にかけては、富士市及び富士宮市との連携の下に大宮・村山口登山道の調査を実施し、各々報告書を刊行した。

2021年度から2024年度にかけて、裾野市及び御殿場市との連携の下に、須山口登山道・御殿場口登山道の調査を行っており、2023年度は本調査期間の３年目に相当する。

2 富士山巡礼路調査委員会の構成

職　名	氏　名	専攻分野	職　　名
委 員 長	中村羊一郎	民　　俗　　学	静岡市歴史博物館館長
副委員長	菊 池 邦 彦	日 本 近 世 史	東京都立産業技術高等専門学校名誉教授
委　　員	時 枝　　務	歴 史 考 古 学	立正大学文学部教授
委　　員	松田香代子	民　　俗　　学	松田民俗研究所代表
委　　員	山 本　　勉	美術史（仏像）	鎌倉国宝館長

※事務局　静岡県富士山世界遺産センター学芸課（担当　大高康正）

3 事務局及び各市町担当者の業務内容

（１）富士山巡礼路調査委員会への出席
（２）調査予定先との連絡調整、現地調査の立会い
（３）登山道の経路を把握するための現地踏査（GPSデータの取得）
（４）現地調査先での資料調査（聞き取り調査、資料撮影など）
（５）調査成果の整理（撮影資料の目録採録、巡礼路調査報告書の分担執筆）

4　2023年度の調査内容（委員出席調査のみ抜粋）

・６月13日 同年度第一回調査委員会（中村委員長、菊池副委員長、時枝委員、松田委員、山本委員出席）
・８月29日・30日 御殿場口登山道の山小屋経営に関わる現地調査（松田委員出席）
・９月14日 ふじさんミュージアム（山梨県富士吉田市）において、歴史考古学分野に関する資料調査（時枝委員出席）
・11月10日 須山口登山道に関わる石造物の現地調査（松田委員出席）
・11月27日 静岡市内にて富士山信仰に関わる神像調査（山本委員出席）
・２月19～21日 裾野市立富士山資料館にて歴史分野に関わる資料調査（菊池副委員長出席）
・２月20日・21日 御殿場口登山道の山小屋経営に関わる聞き取り調査（松田委員出席）

その他、委託調査として遺構測量図（旧祝・渡邊隼人家、須山口御胎内周辺）、現況調査図面の作成業務を実施し、委託調査担当（株式会社フジヤマ）、裾野市担当職員、御殿場市担当職員、事務局センター研究員とで、適宜図面作成に関する打ち合わせ、校正作業を実施した。

須山口旧祝・渡邊隼人家住宅

御殿場口登山道山小屋調査

2-4-2 研究活動

◯松島　仁（まつしま　じん）教授

1　著書

・2024年１月『富士山　藝術の源泉』（庄司美樹と共編、共著、静岡県富士山世界遺産センター。論文「幕末明治期、政治・外交史のなかの“富士山”」及び全作品解説を執筆）

2　雑誌等論文

・2023年６月「日光東照宮をとりまく視覚イメージと狩野探幽」（単著、『大日光』第91号、日光東照宮）

・2024年１月「“源氏将軍”徳川家と『源氏物語』をめぐる政治学」（単著、『NHK大河ドラマ歴史ハンドブック 光る君へ　紫式部とその時代』、NHK出版）

3　報告書等　なし

4　その他の執筆

・2024年２月「富士山を描く」（遠山敦子編著『富士山と日本人』、静岡新聞社、分担執筆）

5　学会発表・シンポジウム

・2023年７月１日「富士山―藝術の源泉として―」（センター国際シンポジウム「世界の聖なる山と富士山」）

・2023年７月２日　同上シンポジウム全体討議

・2024年１月29日「徳川将軍から近代天皇へ―富士山イメージの継承と変奏―」（第53回大阪メディア文化史研究会、オンライン）

・2024年３月９日「帝鑑図と権力」（第3回帝鑑図研究会、オンライン）

6　一般講演

・2023年４月25日「海を越えた富士山」（県立浜松大平台高校、オンライン）

・2023年４月29日「海を越えた富士山」（富士宮駅前交流センターきらら）

・2023年５月21日「徳川将軍と富士山」（センター公開講座）

・2023年６月14日「ピエモンテ州とロンバルディア州のサクリ・モンティ」（第3回学芸課スタディデイ）

・2023年６月９日「徳川将軍と富士山」（静岡市老人憩いの家清開きらく荘）

・2023年６月23日「徳川将軍と富士山」（静岡市浜田生涯学習交流館）

・2023年７月４日「徳川将軍と富士山」（藤枝市生涯学習センター）

・2023年７月８日「海を越えた富士山」（富士宮市立西富士図書館開館30周年記念講座）

・2023年７月22日「徳川将軍と富士山」（三島市立図書館講座・三島市民生涯学習センター）

・2023年８月１日「海を越えた富士山」（藤枝市生涯学習センター）

・2023年８月２日「徳川将軍と富士山」（掛川市大須賀中央公民館）

・2023年８月30日「徳川将軍と富士山」（静岡市用宗老人福祉センター）

・2023年８月30日「徳川将軍と富士山」（横須賀市市民大学、オンライン）

・2023年９月７日「海を越えた富士山」（県立浜松大平台高校、オンライン）

・2023年９月20日「海を越えた富士山」（横須賀市市民大学、オンライン）

・2023年11月11日「徳川将軍と富士山」（清水興津図書館）
・2023年11月22日「富士山を描いてみよう」（静岡市三保生涯学習交流館）
・2023年11月25日「徳川将軍と富士山」（図書館講座、富士市立図書館）
・2024年１月17日「神々の黄昏―幕末・明治の政治・外交と狩野家の人々―」（センター公開講座）
・2024年２月４日「海を越えた富士山」（富士宮市立芝川公民館）
・2024年２月18日「富士山を描いてみよう」（浜松市立可新図書館）
・2024年３月７日「海を越えた富士山」（浜松市立北図書館）

7　授業　なし

8　社会的活動

（1）委員・役員

・公益財団法人徳川記念財団特別研究員
・静岡市文化財保護審議会委員
・科学研究費「富士山とナショナリズム」（代表・須藤遥子摂南大学教授）分担者
・富士山ボランティアセンター（山梨県立富士山世界遺産センター）「富士さんへ謹賀新年―富士山あて年賀状―」審査員

（2）非常勤講師・客員教員等

・国際日本文化研究センター共同研究員
・国立歴史民俗博物館共同研究員

（3）査読　なし

（4）学術交流・研究会の開催

・2023年４月10・21日、５月25・26日、６月15・26日、７月27日、８月24・31日、９月14・25日、10月12日、11月９・16日、12月７・21日、2024年１月11・18日、２月８・29日、３月14・28日
公益財団徳川記念財団との旧将軍家所蔵品の共同悉皆調査研究
・2023年５月27日　国際日本文化研究センター「町とモニュメント」第１回共同研究会
・2023年６月27日　外交的贈答品をめぐる研究交流会（フランス国立高等言語学院教授エステル・ボエール氏と）
・2024年２月25日　国際日本文化研究センター「町とモニュメント」第４回共同研究会
・2024年３月２日　科研「富士山とナショナリズム」共同研究会

9　テレビ・ラジオ・新聞等への出演

【テレビ】

・2023年５月９日　静岡朝日テレビ　ニュース「世界遺産登録10周年記念「美と祈りの霊峰富士山」静岡・富士宮市「静岡県富士山世界遺産センター」
・2023年５月10日 NHK・BSプレミアム『美の壺』「唯一無二の山　富士山」
・2024年１月２日　NHK静岡放送局　ニュース「江戸時代後期　富士山絵画の展示会」
ほか

【ラジオ】

・2023年11月６日、2024年１月８日・２月５日　ラジオF「ミュージアムリンク」

【新聞】

・2023年４月29日　静岡新聞・県内総合「霊峰　土佐派と狩野派並ぶ　きょうから世界遺産センター

登録10周年で記念企画展」

・2023年４月29日　岳南朝日「県富士山世界遺産センター　「美と祈りの霊峰富士山」テーマ　世界文化遺産登録10周年記念し企画展」

・2023年４月30日　中日新聞・地域「霊峰富士アートの世界　水墨画や屏風　江戸時代作品　富士宮世界遺産10周年記念企画展」

・2023年５月25日　岳南朝日「「徳川将軍と富士山」テーマに　県富士山世界遺産センターで講話　10周年記念企画展に合わせ」

・2023年５月28日　静岡新聞・地域東「富士山と権威　歴史背景解説　世界遺産センターで講座」

・2023年７月２日　中日新聞・地域「富士山の世界遺産登録10周年　記念シンポジウムで国内外の専門家が富士山語る」

・2023年７月３日　静岡新聞・社会「「聖なる山」「対話する存在」 富士でシンポ　保全へメッセージ」

・2023年12月28日　静岡新聞・県内総合「狩野派の富士山画を解く　富士宮　元日から世界遺産センター企画展」

・2024年１月６日　讀賣新聞・地域「狩野派絵師　描いた富士山　富士宮で特別展」

・2024年１月６日　岳南朝日「狩野派画家の軸物など展示　県富士山世界遺産センター　来月12日まで特別展　前・後期で入れ替え」

・2024年１月９日　中日新聞・地域「狩野派「富士山　芸術の源泉」 県富士山世界遺産センターで特別展」

・2024年１月10日　富士ニュース「政治外交史の富士山　世界遺産センター　幕末明治の狩野派」

・2024年１月18日　静岡新聞・地域東「幕末から富士山の象徴　歴史たどる　世界遺産センターで特別展」

10　海外学術調査

・2023年５月12日～20日　国際シンポジウムにともなうイタリア・ローマ及びピエモンテ・ロンバルディア州における世界遺産サクリ・モンティ等の調査

○小林　淳（こばやし　まこと）教授

1　著書（編著・単著）なし

2　論文

・「富士火山東山麓、御殿場・馬伏川岩屑なだれ堆積物の^{14}C年代』（山元孝広・小林 淳：地質調査研究報告、74-3、pp.107-118、2023年）

・『箱根町仙石原春山下に露出した湖成堆積物の年代』（萬年一剛・小林 淳・西澤文勝・笠間友博・宮下雄次：55、pp.1-13、2023年）

3　報告書等　なし

4　その他の執筆

・富士山噴火の痕跡を巡る（その２）―富士山東麓に出現した巨大露頭にみえる富士山の爆発的噴火と山体崩壊」（富士山世界遺産コラム（Vol. 15)、静岡県富士山世界遺産センター、2023年）

・「富士山噴火の痕跡を巡る（その３）―田貫湖岩屑なだれ：富士山の残骸が作る地層と地形―」（富

士山世界遺産コラム（Vol. 21）、静岡県富士山世界遺産センター、2024年）
・「富士山の生い立ちと麓にもたらした湧水の科学的特徴―富士山の地下水の道のりをさぐる」（静岡大学東部市民講座ブックレット13「静岡の自然と社会―県東部を中心に―」、2024年）
・「仙石原湖・芦ノ湖の成り立ちとその変遷」（山口珠美ほか編『箱根ジオミュージアム展示解説書』、箱根ジオミュージアム、pp.28-29、2024年）（分担執筆）
・「3000年前以降の水蒸気噴火―地形と堆積物に残された噴火の痕跡―」（山口珠美ほか編『箱根ジオミュージアム展示解説書』、箱根ジオミュージアム、pp.30-31、2024年）（分担執筆）
・「生きている山、富士山」（遠山敦子編著『富士山と日本人』、静岡新聞社、2024年）（分担執筆）
・「富士山の恵みを活かす」（遠山敦子編著『富士山と日本人』、静岡新聞社、2024年）（分担執筆）

5　学会講演

・2023年５月21日「富士北麓から見た1707年宝永噴火」（馬場 章・小林 淳：日本地球惑星科学連合2023年大会、M-IS22-02）
・2023年５月23日「FTIR analysis of H2O in hydrated volcanic glasses: insights into submarine eruption processes」（I. McIntosh, K. Tani, K. Aoki, A. Nichols, T. Yanagishima, Q.Chang, J. Kimura, M. Kobayashi, M. Murata, T. Suzuki:日本地球惑星科学連合2023年大会、S-GC37）.

6　一般講演

・2023年６月24日「富士山の生い立ちと麓にもたらした湧水の科学的特徴―富士山の地下水の道のりをさぐる―」（静岡大学東部市民講座 静岡の自然と社会～県東部にスポットをあてて考える［静岡大学未来社会デザイン機構］）
・2023年８年11日　「富士山の成り立ち」（サイエンスカフェ［ふじのくに地球環境史ミュージアム］）
・2023年８月29日「静岡県域の地形特性からみた富士山噴火に対する警戒避難のあり方」［静岡県立大学グローバル地域センター／静岡県富士山世界遺産センター］
・2023年９月５日「富士山を学ぶ 火山・地質・防災から読み解く①：静岡の大地の成り立ちと富士山の噴火史」（世界文化遺産富士山について学ぶ～富士山今昔物語～：藤枝地区交流センター西館生涯学習講座［藤枝市生涯学習センター］）
・2023年10月３日「富士山を学ぶ 火山・地質・防災から読み解く②：富士山の災禍（災害・防災）と恵み（湧水）」（世界文化遺産富士山について学ぶ～富士山今昔物語～：藤枝地区交流センター西館生涯学習講座［藤枝市生涯学習センター］）
・2023年11月18日「富士山の噴火と火山防災―ハザードマップが示す噴火への警戒・避難―」［静岡市蒲原生涯学習交流館］
・2023年11月24日「富士山の生い立ちと麓にもたらされた地下水・湧水の科学的特徴―富士山の地下水の道のりをさぐる―」［富士宮駅前交流センターきらら集会室］
・2023年12月３日「富士山の噴火と火山防災―ハザードマップからみえる警戒・避難のあり方―」［富士市富士見台６丁目自治会］
・2024年２月７日　「富士山の噴火史―静岡県 富士山周辺の大地の成り立ち―」［（一社）日本砕石協会関東地方本部］
・2024年３月23日　「伊豆弧北端部活火山の噴火史研究」（静岡の火山と防災-その45年を振り返る：静岡大学未来社会デザイン機構・教育学部・防災センター］
・その他、富士山世界文化遺産出前講座を適宜対応

7　授業　なし

8　社会的活動

（1）委員・役員

・山梨県・静岡県・神奈川県：富士山火山防災対策協議会 構成員（火山専門家）

・防災科学技術研究所：火山研究運営委員会データ利活用推進タスクフォース降灰チーム 委員

・富士宮市：特別天然記念物「湧玉池」調査検討のための会議 委員

（2）非常勤講師・客員教員等

・静岡大学防災総合センター 客員教授

・首都大学東京都市環境学部 客員教授

（3）査読　なし

（4）学術交流・研究会の開催

・2023年８月29日　富士山の火山防災・環境研究の最前線〈静岡県立大学グローバル地域センターとの共催〉［静岡県富士山世界遺産センター］

（5）他施設・団体への協力と県民からの問い合わせ対応

・2023年４月24日　令和５年度 第１回特別天然記念物湧玉池調査検討会議〈会議〉［富士宮市］

・2023年８月１日　自然科学系部の教育活動への協力＜講師＞［静岡県立磐田南高等学校］

・2023年８月９日　令和５年度 第２回特別天然記念物湧玉池調査検討会議〈会議〉［富士宮市］

・2023年10月11日　富士山水ヶ塚・太郎坊フィールドワーク〈講師〉［令和５年度 富士地区教育研究集会］

・2023年11月２日　鮎沢区文化祭＜掲示資料貸与＞［御殿場市鮎沢区］

・2024年12月23日　TimeTrip ～伊豆半島ジオパーク　噴火と衝突を繰り返す伊豆諸島〈取材協力〉［フジテレビ］

・2024年１月23日　令和５年度 第４回特別天然記念物湧玉池調査検討会議〈会議〉［富士宮市］

・2024年３月16日～５月12日　みほしるべ企画展「富士山と三保松原の生き物」〈展示協力〉［静岡市三保松原文化創造センター］

・その他、適宜対応

9　テレビ・ラジオ・新聞等への出演

・2023年７月２日　東京新聞：火山模型でハザード実感―噴火災害の可能性 地形と結び付け理解―

・2023年７月３日　中日新聞：火山模型でハザード実感―噴火災害の可能性 地形と結び付け理解―

・2022年７月18日　NHK静岡「たっぷり静岡」：みんなで防災―夏休みに！県内各地の防災施設

・2023年７月25日　静岡第一テレビ「every. 静岡」：地層が語る富士山の歴史―噴火や崩壊繰り返し今の形に―

・2023年７月28日　静岡第一テレビ「地震・防災チェック」

・2023年８月７日　ラジオエフ「ミュージアムリンク」：企画展の紹介

・2023年８月16日・23日　シティエフエム静岡「あざラジ！@Morning IRODORI」：静岡県富士山世界遺産センター、企画展の紹介

・2023年８月20日　東京新聞「首都圏ニュース」：地層剥ぎ取り資料が語る富士山噴火の歴史 富士宮で企画展

・2023年８月21日　NHK静岡「おはよう静岡」：地層から富士山の噴火学ぶ企画展

・2023年８月22日　中日新聞「地域の話題」：富士山噴火の歴史 富士宮で企画展
・2023年８月29日　NHK静岡「たっぷり静岡」：富士山火山防災の研究会
・2023年８月30日　静岡新聞：富士山噴火の研究共有―溶岩流避難、地形の特性 鍵―
・2023年８月31日　岳南朝日：富士山の火山防災・環境テーマに各県協力での初の研究発表―
・2023年９月１日　静岡新聞：富士山の歴史 地層に見る―富士宮・世界遺産センターで企画展―
・2023年９月４日　ラジオエフ「ミュージアムリンク」：企画展・常設展示物の紹介
・2023年９月13日　岳南朝日：富士山の自然や防災を学ぶ―富士宮東：２年生対象に講演会

10　海外学術調査　なし

○大高　康正（おおたか　やすまさ）教授

1　著書（編著・単著）　なし

2　論文

・2024年３月「お札博士フレデリック・スタールと九十九コレクション」（静岡県富士山世界遺産センター編『富士山学』第４号、雄山閣）

3　報告書等　なし

4　その他の執筆

・2023年６月「須走口登山道の丁目石」（富士山世界遺産コラム〈Vol.12〉、静岡県富士山世界遺産センターHP）
・2023年10月「静岡市域に伝わる富士参詣の習俗と法器草（オニバス）」（富士山世界遺産コラム〈Vol.18〉、静岡県富士山世界遺産センターHP）
・2024年２月「富士山を敬う」、「外国人が見た富士山」（遠山敦子編著『富士山と日本人』、静岡新聞社、分担執筆）

5　学会講演

・2023年７月１日（土）：富士山世界遺産登録10周年記念国際シンポジウム「富士山の巡礼路調査の概要～静岡県富士山世界遺産センターの研究成果」
・2024年１月26日（金）ガストロノミーツーリズム研究会：「徳川将軍に献上した富士山南麓の幻の名産品～善徳寺酢（ぜんとくじす）」

6　一般講演

・2023年４月９日（日）富士山本宮浅間大社氏子青年会記念講演会：「富士山と浅間大社」
・2023年５月14日（日）駿河郷土史会：「世界文化遺産「富士山」の構成資産」
・2023年８月23日（水）静岡市南部生涯学習センター：「富士山の信仰を歴史から学ぶ」
・2023年９月19日（火）静岡県立富士宮東高等学校：「富士山の参詣曼荼羅を絵解く」
・2023年10月５日（木）富士宮市立人穴小学校：「人穴富士講遺跡現地講座」
・2023年10月14日（土）富士宮市郷土資料館「富士山世界遺産登録10周年記念展」関連イベント：「富士山の参詣曼荼羅の絵解き」
・2023年10月19日（木）静岡市岡生涯学習交流館：「富士山の縁起を知る～赫夜姫」
・2023年10月21日（土）山梨県立富士山世界遺産センター：「三重県伊勢・志摩地方の富士先達～鳥羽市今浦の浅間堂」

・2023年10月24日（火）静岡市東部生涯学習センター：「富士山の縁起を知る～赫夜姫」
・2023年11月８日（水）横須賀市生涯学習センターまなびかん：「富士山の信仰を歴史から学ぶ」
・2023年11月10日（木）浜松市雄踏協働センター：「富士山の縁起を知る～赫夜姫」
・2023年11月15日（水）横須賀市生涯学習センターまなびかん：「富士山の参詣曼荼羅を絵解く」
・2023年11月18日（土）富士市天間まちづくりセンター：「富士山の信仰を歴史から学ぶ」
・2024年１月９日（火）藤枝地区交流センター西館：「富士山の信仰を歴史から学ぶ」
・2024年１月20日（土）静岡市用宗老人福祉センター：「富士山の縁起を知る～赫夜姫」
・2024年２月１日（木）浜松市富塚協働センター「富士山の縁起を知る～赫夜姫」

7　授業

・2023年10月17日（火）静岡文化芸術大学「静岡学」講座：「富士山と富士山信仰」
・2023年12月２日（土）・16日（土）ふじのくに地域・大学コンソーシアム「ふじのくに学」単位互換授業：「富士山の自然と社会」座学、現地見学

8　社会的活動

（１）委員・役員

・小山町文化財保存活用地域計画策定会議委員
・日本山岳修験学会理事
・富士市文化財保護審議会審議委員
・富士宮市史（中世）執筆員

（２）非常勤講師・客員教員等　なし

（３）査読　なし

（４）学術交流・研究会の開催

・2021年４月～2026年３月：日本学術振興会科学研究費助成事業　基盤研究（B）「両部神道の伝播と継承に関する総合的研究」（代表：伊藤聡）研究分担者

（５）他施設・団体への協力と県民からの問い合わせ対応

・適宜対応

9　テレビ・ラジオ・新聞等への出演

・2023年５月16日（火）山梨テレビ「スゴろく　富士山部」取材対応、出演
・2023年６月22日（木）「朝日小学生新聞」取材対応、紙面掲載
・2023年７月１日（土）「朝日中高生新聞」取材対応、紙面掲載
・2023年７月１日（土）NHKラジオ第一「石丸謙二郎の山カフェ　富士山・世界文化遺産登録から10年」９時台出演
・2024年２月14日（金）NHK BS1「Journeys in Japan 富士山ロングトレイル後編」取材対応、出演
・2024年２月14日（水）日産労連「ゆうLife」取材対応
・その他、適宜対応

10　海外学術調査　なし

○井上　卓哉（いのうえ　たくや）准教授

1　著書（編著・単著）

・2023年７月　井上卓哉著　『ステレオ写真で眺める明治日本　まちとむらの暮らし、富士山への憧れ』（古今書院）

・2023年10月　井上卓哉編著　『富士を介して信を通じる　平川義浩絵葉書コレクションにみる富士山の姿』（風媒社）

2　論文

・2023年５月「守札の受容圏の変遷と山村の信仰活動―新潟県妻有地域における守札の分析から―」（『日本民俗学』314号、日本民俗学会、査読有り）

3　報告書等　なし

4　その他の執筆

・2023年10月「絵葉書の効能と平川義浩富士山絵葉書コレクション」（富士山世界遺産コラム〈vol.17〉、静岡県富士山世界遺産センターHP〉

・2023年11月「第42回　日本山岳修験学会　飯田学術大会　参加記」（『山岳修験』　第72号、日本山岳修験学会）

・2024年１月「写真から考察する明治期の富士登山」（『地理』69-2、古今書院）

・2024年２月「御祓大麻（神宮大麻）に込められた願い～新潟県妻有地域の守札の分析から～」（『瑞垣』257号、神宮司廳）

・2024年２月「富士山を敬う」、「富士山の恵みを活かす」、「外国人が見た富士登山」（遠山敦子編著『富士山と日本人』、静岡新聞社、分担執筆）

・2024年３月「九十九コレクションにおける千社札の概要」（静岡県富士山世界遺産センター編『富士山学』第４号、雄山閣）

5　学会講演

・2023年10月22日（日）：日本民俗学会第75回例会：「浮世絵に見る富士登山―歌川貞秀『南口村山並大宮ヨリ登山細見全図』を題材に―」

6　一般講演

・2023年７月２日（日）：富士山世界遺産登録10周年記念国際シンポジウム：「ニュージーランド・トンガリロの聖なる山々」

・2023年７月17日（日）：滋賀県東近江市　木地師文化フォーラム2023：「秋山木鉢にみる山と人とのつながり」

・2023年８月５日（日）：岳南稲門会　富士山リレー講演会：「私たちにとっての富士山」

・2023年８月23日（水）：横須賀市生涯学習財団　横須賀市市民大学　前期講座：「江戸時代の富士登山～西と東から挑んだ富士山の姿」

・2023年８月23日（水）：横須賀市生涯学習財団　横須賀市市民大学　前期講座：「日本の象徴としての富士山～ビジュアル・メディアに見る富士山のカタチ」

・2023年11月７日（火）：藤枝市生涯学習センター　世界文化遺産富士山について学ぶ：「江戸時代の富士登山～西と東から挑んだ富士山の姿」

・2023年11月23日（木）：富士山世界遺産セミナー「富士山の麓に生きる～金原明善と富士山麓の生

業」:「趣旨説明」

・2023年12月５日（火）：藤枝市生涯学習センター　世界文化遺産富士山について学ぶ：「日本の象徴としての富士山～ビジュアル・メディアに見る富士山のカタチ」

・2023年12月20日（水）：御殿場市　市民大学講座：「江戸時代の富士登山～西と東から挑んだ富士山の姿」

・2024年１月13日（土）：伊豆市立修善寺図書館：「お札とビジュアル・メディアに見る富士山のカタチ」

・2024年１月26日（金）：ガストロノミーツーリズム研究会：「世界遺産富士山のもたらす自然の恵み～湧水と富士宮の養鱒」

・2024年２月15日（木）：焼津市東益津公民館：「日本の象徴　富士山」

７　授業

・2023年５月31日（水）静岡県立大学「歴史から読み解く静岡学」講座：「富士に祈る～お札や引札などに込められた祈りのカタチ」

８　社会的活動

（１）委員・役員

・静岡県民俗学会理事

・日本山岳修験学会理事

・東近江市森の文化資源調査（木地師分野）調査員

・富士宮市史（民俗）執筆員

（２）非常勤講師・客員教員等　なし

（３）査読　なし

（４）学術交流・研究会の開催

・2021年４月～2026年３月：日本学術振興会科学研究費助成事業　基盤研究（B）「両部神道の伝播と継承に関する総合的研究」（代表：伊藤聡）研究協力者

・2022年11月３日～５日：日本学術研究会科学研究費助成事業　基盤研究（A）「20世紀中期以降における焼畑と熱帯林の変容メカニズムの地域間比較」（研究代表者：佐藤廉也）に研究協力者として現地ミーティングへ参加および報告

（５）他施設・団体への協力と県民からの問い合わせ対応

・適宜対応

９　テレビ・ラジオ・新聞等への出演　なし

10　海外学術調査

・2023年５月８日～15日：ニュージーランド・トンガリロ国立公園：世界遺産の管理等に関する情報収集および聞き取り調査（富士山世界遺産登録10周年記念国際シンポジウム関連）

2-4-3 富士山学

1「富士山学」

「富士山学」とは、歴史学、民俗学といった信仰、絵画、文学といった芸術、さらには文化遺産学、火山学など、人文科学および自然科学の諸分野における富士山に関する研究を学際的に取り扱い、富士山の持つ普遍的価値をより深く知ることを目指す学問領域を指す。

「富士山学」の研究成果を広く一般に周知することを目的に、2020年度より『富士山学』という刊行物にまとめ、各年度ごとに研究員より編集担当を定めて特集号を企画する。

2 2023年度『富士山学』第４号の刊行

昨年度12月の開館５周年記念展「博士（はくし）の愛した富士山～フレデリック・スタールと九十九（つくも）コレクション」では、アメリカの人類学者フレデリック・スタールの助手兼通訳をつとめた九十九黄人（おうじん）（豊勝）が収集した富士山関係資料を紹介した。2023年度には、これらの資料を当センターへ寄贈いただくことになった。そこで、2023年度刊行の『富士山学』第４号では、「お札博士フレデリック・スタールと日本文化」と題した特集を企画し、九十九黄人旧蔵の富士山関係資料コレクションの学術的な面に注目した。

『富士山学』第４号（雄山閣、2024年３月刊行）目次

【特集「お札博士フレデリック・スタールと日本文化」】

〔テーマ１〕フレデリック・スタールと九十九黄人

・「お札博士フレデリック・スタールと九十九コレクション」
（大高康正：静岡県富士山世界遺産センター学芸課教授）

・「「千社男」から「富岳洞」へ―富士山コレクター・大中空峰と関西趣味界―」
（藤野滋：近江郷土玩具研究会代表）

〔テーマ２〕東洋民俗博物館

・「父、九十九黄人を語る（講演録）」
（九十九弓彦：東洋民俗博物館理事長）

・「東洋民俗博物館の展示と附属施設」
（芹澤知広：天理大学国際学部教授、中尾徳仁：天理大学附属天理参考館学芸員）

〔テーマ３〕千社札と納札文化

・「オレゴン大学のスタール千社札コレクション―オレゴン大学ナイトライブラリー―」
（マクドゥエル久美子：オレゴン大学東アジア言語・文学学部博士課程・同図書館）

・「職人から見た浮世絵と千社札―納札交換会東都納札睦―」
（小川信人：関岡木版画工房代表・東都納札睦職方）

・「千社睦の歩みと納札文化の一端」
（柘恭三郎：柘製作所会長・千社睦世話役）

・「九十九コレクションにおける千社札の概要」
（井上卓哉：静岡県富士山世界遺産センター学芸課准教授）

2-4-4　『富士山と日本人　豊かな「富士山学」への誘い』

1　発刊の目的

静岡県富士山世界遺産センターは、世界文化遺産である富士山の顕著な普遍的価値を次世代に継承し、「永く守る」拠点施設として平成29年に開館し、５周年を迎えた。開館以来、当センターでは、富士山を「永く守る」ための諸活動の一つとして、「富士山学」の体系化と富士山の価値を探求する研究活動を実施してきた。

令和５年に富士山の世界遺産登録10周年を迎えるにあたり、これまでの研究成果を取りまとめた本書を発行することで、「富士山学」の現在地や、富士山の普遍的価値の多様性について広く知っていただく機会を提供することを主要な目的とした。

2　書籍の情報

（１）構成

序　章　日本人にとっての富士山とは何か…… 遠山館長
１　章　生きている山、富士山…… 小林教授
２　章　富士山を敬う…… 大高教授・井上准教授
３　章　富士山を詠む…… 渡部泰明（国文学研究資料館館長）
４　章　富士山を描く…… 松島教授
５　章　富士の恵みを活かす…… 小林教授・井上准教授
６　章　外国人が見た富士山…… 遠山館長・松島教授・大高教授・井上准教授
資料編　世界遺産となった富士山…… 滝副館長・世界遺産課大石課長

各章の間には、以下の著名人によるコラム（「私と富士山」）を掲載。
川勝平太（前静岡県知事）／藤井敏嗣（東京大学名誉教授・地球科学者）／鈴木与平（鈴与株式会社代表取締役会長）／河野元昭（東京大学名誉教授・美術史学者）／秋道智彌（山梨県立富士山世界遺産センター所長）／鈴木正崇（慶應義塾大学名誉教授・文化人類学者）／徳川家広（徳川宗家一九代当主）

（２）発行　静岡新聞社
（３）体裁　Ａ５版／320頁
（４）発行部数　2,000部
（５）発行日　令和６年２月23日

2-4-5　資料収集

1　資料収集の方針

静岡県富士山世界遺産センターでは、設置目的である富士山の価値の後世継承、富士山学の研究、情報発信拠点としての役割を果たすため、富士山に関する資料を以下の視点から収集している。

（1）「信仰の対象」と「芸術の源泉」としての普遍的な価値を証明する資料を収集する。

（2）貴重な文化財の滅失や散逸を防ぐとともに、富士山学の研究の充実や教育の普及、集客力の強化に活用する資料を収集する。

2　2023年度収集作品

2023年度はセンターの収蔵方針に基づき、厳正かつ緻密な調査、さらに2023年７月25日の収集専門委員会議を経て下記９件（購入８件、寄贈１件）の資料を収集した。各作品の概要と収集の理由は下記の通りである。

○購入資料一覧

№.	ジャンル	作者	資料名
1	絵画	狩野晴川院養信	大和名所図屏風
2	典籍	（不明）	富士之人穴
3	絵画	倉石翠波	東京駅ホーム壁画原画（仮題）
4	絵画	（不明）	湘南温泉郷観光図
5	絵画	嶺華	箱根・小田原交通鳥瞰図
6	絵画	中村慈郎（治郎）	伊豆長岡温泉小川屋旅館を中心とする史蹟観光鳥瞰図
7	その他	吉田初三郎	吉田初三郎の鳥瞰図を所収した観光案内一式
8	工芸品	吉田初三郎	吉田初三郎作茶碗（３点）および碗図

・「大和名所図屏風」　狩野晴川院養信　江戸時代後期（1834～46年）

【作品概要と収集理由】

狩野晴川院養信は江戸時代後期の御用絵師で、木挽町狩野家当主として狩野派一門を統率した。天保度・弘化度には焼失した江戸城西丸・本丸御殿の再建に当たり障壁画制作を統括した。「富士飛鶴図」を描いた狩野董川中信の実兄である。

晴川院養信が法印時代の作品で、六曲一双の右隻に富士山や住吉、松島など、左隻に厳島や近江

八景など全国の名所を配布する。各名所は海景により連続される。

画面には金泥、銀泥により雲が表されるとともに、古風なすやり霞が棚引く。古絵巻の学習を行った晴川院養信は、一連の源氏物語絵において復古やまと絵の画風を示したが、本作もそれに応じるものといえよう。一方、三峯型の富士山の背後に群青を刷く方法は、晴川院養信自身の「花見遊楽図屏風」（京都国立博物館蔵）にも通じ、彼の新様式を示す。

本作は、江戸時代後期の狩野派による富士山図の再優品であり、これまでの収集作品とともに江戸初期に構築された定型がいかに継承されていったかをよく示す。作者・様式ともにセンターの収集方針「富士山絵画史のメインストリーム」を顕著に示す作例である。

・「富士之人穴」（不明）　江戸時代（宝暦13年（1763）写）

【作品概要と収集理由】

鎌倉時代の歴史書『吾妻鏡』の建仁３年（1203）６月３日の記事にある仁田四郎忠常が「富士の人穴」に入って翌日帰還したという話をもとに忠常の異郷訪問、地獄巡歴の物語に仕立てられた内容である。富士信仰を唱道する目的で利用されていたと考えられる物語。

本資料は宝暦13年（1763）に越後国魚沼郡竹俣村の山田熊蔵が所持していたもの。保存状態も裏打ち補修の済んだ良好な状態で、上・下巻を１冊に合綴、27丁で帙も附属する。

静岡県内の富士山世界文化遺産の構成資産のひとつ、人穴富士講遺跡に関する歴史資料（典籍）である。原本となる同作品は15世紀以前には成立していたとされるが、江戸時代以降の長谷川角行を開祖とする富士講の隆盛とともに、写本が多数制作され、本資料もその写本のひとつと考えられることから、同作品の写本の系統関係を研究する上でも、また富士講研究の資料としても研究活用できる。

・「東京駅ホーム壁画原画（仮題）」

【作品概要と収集理由】

昭和24年に東京駅の新設ホーム壁面に、観光客誘致の目的で設置予定の壁画（高さ2.7メートル×横18メートル）の原画として描かれた鳥瞰図（絹本着色）で、富士山を背景に、箱根や湯河原など、東海道線（鎌倉～湯河原間）沿線の温泉地を描く。東京駅駅長による推薦書附属。

観光客誘致を目的に、東京駅のホームに設置予定の壁画の原画であり、配線をへて、復興の途上における日本において、富士山周辺の箱根や湯河原といった観光地に対する期待の高さがうかがえる資料であり、鉄道を介した富士山周辺の観光の展開に関する研究や展示に活用ができる。

・「湘南温泉郷観光図」

【作品概要と収集理由】

東京駅から東海道線沿線の横浜、鎌倉、湘南、伊豆半島の観光地を描いた肉筆の鳥瞰図（絹本着色）で、観光客誘致を目的とした観光パンフレットに掲載するための原画と考えられる。

東京駅を出発し、神奈川県から静岡県東部・伊豆にいたる観光地に対する期待の高さがうかがえる資料であり、鉄道を介した富士山周辺の観光の展開に関する研究や展示に活用ができる。

・「箱根・小田原交通鳥瞰図」

【作品概要と収集理由】

富士山を背景に、小田原および箱根湯本から芦ノ湖にかけての温泉地（富士箱根国立公園）を描いた肉筆の鳥瞰図（絹本着色）。作者である嶺華と金子常光の合作をもとにした観光パンフレットとしては、「観光の哈爾浜」、「伸びゆく延岡市」などが知られるが、嶺華の単作かつ肉筆の作品は本資料以外に知られていない。大胆なデフォルメを取り込みながらも、対象を精密に描くという点においては、吉田初三郎の画法とは一線を画しており、初三郎から独立した金子常光の影響を大きく受けたものか。

観光客誘致を目的とした観光パンフレットに掲載するための原画と考えられる。箱根（富士箱根国立公園）という観光地に対する期待の高さがうかがえる資料であり、鉄道を介した富士山周辺の観光の展開に関する研究や展示に活用ができる。また、戦争の影響により、鳥瞰図の製作は困難になったとされる昭和18年の作品であり、政府における観光地としての箱根（富士箱根国立公園）の位置づけを検討することが可能な資料として活用が可能である。

・「伊豆長岡温泉小川屋旅館を中心とする史蹟観光鳥瞰図」

【作品概要と収集理由】

富士山を背景として、伊豆長岡温泉小川屋旅館を中心に、その周辺の史蹟や観光地を描いた肉筆の鳥瞰図（絹本着色）。小川屋旅館を中心に描いていることから、同旅館の依頼により描かれたものとして考えられ、同旅館を宣伝するための観光パンフレットの原画として用いられたものか。作者の中村治（慈）郎は、吉田初三郎の弟子のうち、その画風を最も良く引き継いだとされ、本作品もその特徴がよく示されている。

旅館への観光客誘致を目的とした観光パンフレットに掲載するための原画と考えられる。富士山周辺の観光事業者による誘客の実態を知ることができる資料であり、富士山周辺の観光開発に関する研究や展示に活用できる。また、中村治郎は、富士山周辺に居住し、富士山周辺の鳥瞰図を多く描いた画家であることから、彼の作品を比較することで、富士山周辺の観光の変遷を分析することが可能となる。

・「吉田初三郎の鳥瞰図を所収した観光案内一式」

【作品概要と収集理由】

吉田初三郎は大正の広重として知られる鳥瞰図画家。大胆なデフォルメを施しながら、風景を上空から見たように描き出す、初三郎式の鳥瞰図を生み出す。生涯で製作に携わった鳥瞰図の数は1600点を超えるとされ、その多くが大正から昭和初期にかけて発行された観光パンフレットに掲載され、人気を博した。

大正から昭和初期に起こった大観光ブームの中で、数多くの観光パンフレットが発行されているが、その内の代表的作者である吉田初三郎が描いた富士山および静岡県の鳥瞰図を所収したものを収集。富士山周辺の観光事業者による誘客の実態を知ることができる資料であり、富士山周辺の観光開発に関する研究や展示に活用できる。

・「吉田初三郎作茶碗（３点）および碗図」

【作品概要と収集理由】

鳥瞰図画家として知られる吉田初三郎による富士山を描いた茶碗（３点）。それぞれの茶碗および

箱には、初三郎の銘と落款が入る。碗図は、富士山柄の茶碗を描いたもの（絹本着色）。

吉田初三郎による鳥瞰図は数多く知られているが、自らの手による工芸品についてはほとんど知られていない。本資料は、吉田初三郎の遺族に伝来したものであり、これまで市場に出ることがなかった。初三郎は、自らの鳥瞰図において、本来見えることがない場所でも富士山を描くことが多く、富士山への思い入れの深さを伺うことが出来るが、本資料のように富士山そのものを描いた工芸品を通じても、彼の富士山に対する考えについて考察・検討が可能である。

○寄贈受入資料一覧

№.	ジャンル	件数	資料名
1	古文書・工芸品・書籍・典籍、衣服	3,700件	九十九黄人富士山資料コレクション

・九十九黄人富士山資料コレクション　近代初期（明治～昭和初期）

【作品概要と収集理由】

九十九豊勝（黄人）氏は、早稲田大学在学中よりシカゴ大学人類学専攻の教授フレデリック・スタールの通訳をつとめた。豊勝氏がスタール博士の調査に同行した際、あるいは博士の呼びかけによって集められた資料の中には富士山関係資料も数多く含まれており、この資料は九十九氏の個人所蔵分として九十九邸裏山の富士文庫に保管され、現在まで一般公開されることはなかった。昨年度に一部資料は「博士の愛した富士山」展のため借用し、展示会初公開を行った。

スタール博士は富士講の研究者としてもよく知られており、このコレクションに含まれる資料群は近代初期（明治～昭和初期）にかけての富士講研究、あるいはスタール博士と富士山および日本文化との関わりを探る上でも最重要なものと位置づけられる。

3　施設・組織・予算

3-1 施設

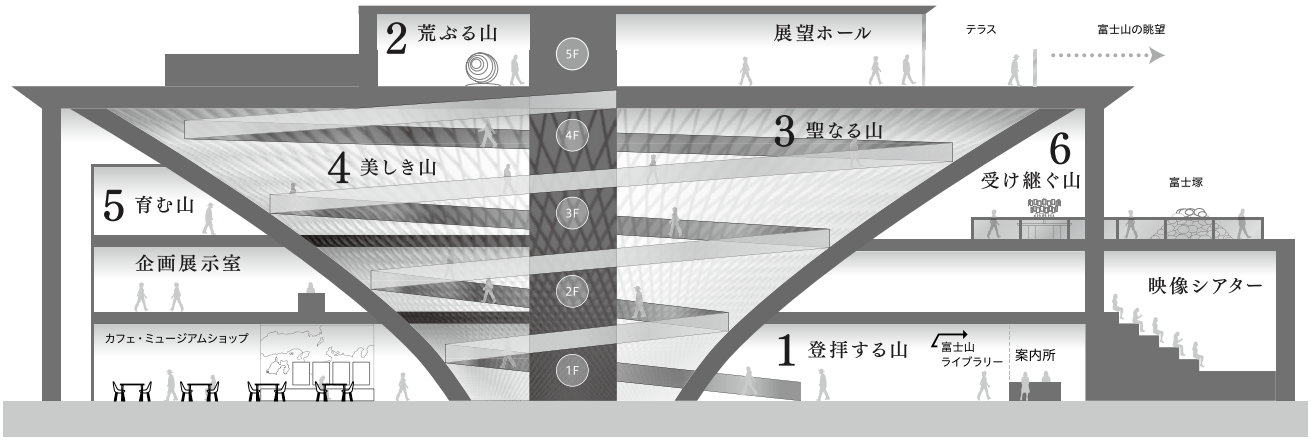
1　建物概要

名　　称　静岡県富士山世界遺産センター
　　Mt.FUJI WORLD HERITAGE CENTRE, SHIZUOKA
敷地面積　6,086.7㎡
延床面積　3,438.45㎡
構　　造　鉄骨造（5階建て）
設　　計　株式会社坂茂建築設計
施　　工　建　築　佐藤工業・若杉組特定建設工事共同企業体
　　電　気　住友・三和特定建設工事共同企業体
　　機　械　須賀・遠藤特定建設工事共同企業体
　　防音壁　株式会社若杉組
　　収蔵庫　金剛株式会社
　　外　構　佐藤工業株式会社静岡営業所
　　さく井　土屋産業株式会社
　　サイン　株式会社若杉組
展示設計・施工　株式会社丹青社
西棟左官造作・富士塚制作　挾土　秀平（職人社　秀平組）
スロープ壁面描画　島倉　二千六（アトリエ雲）

富士ヒノキの木格子の外壁を持つ建物は「逆さ富士」を表現し、前面の水盤に映り込むと「富士山」の姿が現れる。水面に映る富士山は、内部に豊富な湧水をたたえた「水の山」としての富士山を象徴的に表している。

富士山の湧水を館内に取り込み、空調熱源として利用した後、水盤に利用し、富士の水の循環を建築的にも表現している。

2　フロアマップ



この施設では、スロープを上りながら富士登山を感じ、本物の富士山に出会い、世界遺産「富士山」について学ぶ、「富士山」を満喫する体験を提供している。

展示については、「富士山の総合的、学際的、国際的な研究活動を展開していく中で、各コーナーが有機的につながりあう展示」「世界からの来館者を感化する展示」をテーマとしている。

3　施設概要

所 在 地　静岡県富士宮市宮町5-12
Ｔ Ｅ Ｌ　0544-21-3776
Ｆ Ａ Ｘ　0544-23-6800
営業時間　９：00～17：00
（７、８月は～18：00、
最終入館は閉館の30分前）
休 館 日　毎月第３火曜日、施設点検日
観 覧 料　300円（団体割引あり）
70歳以上、大学生以下、障害者等は無料（要証明）
企画展は別途料金を設定
アクセス　JR身延線富士宮駅から徒歩８分
新東名高速道路新富士ICから約10分
東名高速道路富士ICから約15分

3-2 組織

1 組織図・職員（2023年度）

〈組織図〉

館　長（非常勤）

副館長 ── 企画総務課長 ── 企画総務班 7人

班　長	1人
主幹兼副班長	1人
主　査	2人
主　任	2人
主　事	1人

副館長 ── 学芸課長兼教授 ── 課員3人

教　授	2人
准教授	1人

職員数　計　13人

（その他会計年度任用職員）

職　　名	人数
会計年度任用職員	3人

館長	遠山　敦子
〈職員〉	
副館長	滝　　正晴
企画総務課長	小室　勝彦
企画総務班長	赤池　勇治
企画総務班主幹兼副班長	美澤　綾子
企画総務班主査	長嶋　昌和
企画総務班主査	小川　士文
企画総務班主任	村松　文佳
企画総務班主任	土谷　周平
企画総務班主事	芹澤　美緒
学芸課長兼教授	松島　　仁
学芸課教授	小林　　淳
学芸課教授	大高　康正
学芸課准教授	井上　卓哉
会計年度任用職員	渡邉　敦美
	鈴木　綾音
	山﨑　香織

3-3 予算

1　富士山世界遺産センター管理運営事業費（2023年度）

歳出の部　（単位：千円）

項　目		予算額（当初）	決算額	内　容
究める	調査研究	8,858	6,044	巡礼路調査、分野別研究
	資料収集	11,545	10,922	収蔵品購入
伝える・交わる	教育普及	905	646	世界遺産セミナー、館内講座、出前講座の実施
	展　示	28,493	23,961	常設展示の更新、企画展の開催
	情報発信	4,076	3,970	ホームページ、ニュースレター等様々な情報発信
守る	人材養成	410	57	世界遺産ガイドのスキルアップ講座
維持管理		148,501	134,857	光熱水費、接遇スタッフ、設備運転、清掃、定期点検　ほか
事 務 費		20,651	19,016	非常勤職員人件費、消耗品費、印刷費、職員旅費　ほか
歳 出 計		223,439	199,473	

歳入の部　（単位：千円）

項　目	予算額（当初）	決算額	内　容
観覧料収入	36,183	27,821	常設展観覧料
その他収入	9,305	7,656	物品貸付料、図書売払収入等
一 般 財 源	177,951	163,996	
歳　入　計	223,439	199,473	

4 資　料

4-1 来館者数データ

2023年度月間来館者数推移

（単位：人）

年	月日	全体	観覧券発券数						
			一般	団体	小人	学生	高齢者	その他	計
2023	4月計	11,381	6,797	808	967	609	1,489	278	10,948
2023	5月計	15,365	8,358	383	2,808	599	2,036	611	14,795
2023	6月計	8,840	4,185	744	1,293	547	1,584	249	8,602
2023	7月計	13,123	6,741	614	2,570	1,149	1,025	482	12,581
2023	8月計	16,442	8,534	1,507	2,560	1,288	1,217	839	15,945
2023	9月計	11,989	6,126	661	1,140	828	2,446	366	11,567
2023	10月計	14,349	7,402	2,449	1,199	366	1,985	496	13,897
2023	11月計	14,027	7,736	863	1,310	958	2,318	531	13,716
2023	12月計	6,316	3,911	282	381	388	762	182	5,906
2024	1月計	15,521	8,873	219	1,128	834	1,932	499	13,485
2024	2月計	13,424	6,642	1,107	722	682	1,499	1,888	12,540
2024	3月計	18,822	9,489	2,313	1,594	1,185	2,922	524	18,027
2023年度累計		159,599	84,794	11,950	17,672	9,433	21,215	6,945	152,009

4-2 2023年度の休館日

毎月第三火曜日、施設点検日、年末年始をセンターの休館日としている。

2023年度における休館日は以下のとおりである。

〈毎月第三火曜日〉 4月18日、5月16日、6月20日、7月18日、8月15日、9月19日、10月17日、11月21日、12月19日、1月16日、2月20日、3月19日

〈施設点検日〉 6月5～9日、12月4～8日

〈年末年始〉 12月27日～12月31日

4-3 公式オリジナルグッズ

1 概 要

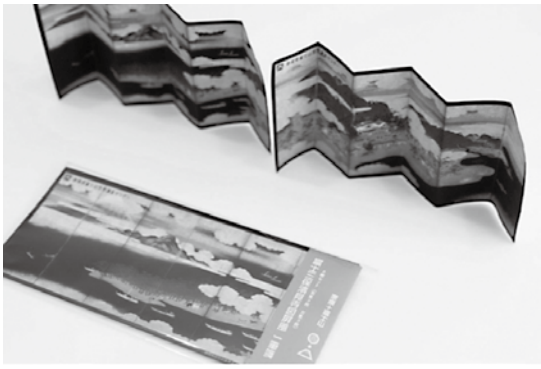
静岡県富士山世界遺産センターでは、観覧の記念やお土産として持ち帰って楽しんでいただけるよう、当センターオリジナルのグッズ制作・販売を行っている。令和４年度は、計２点のオリジナルグッズを制作し、合計して20点のオリジナルグッズを、当センターミュージアムショップにて販売した。

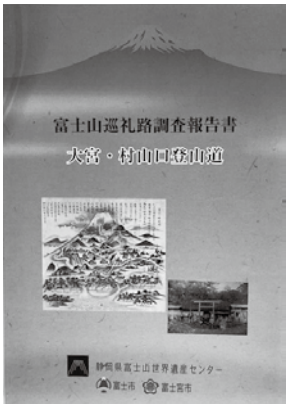
2 オリジナルグッズ一覧（令和６年３月31日現在）

No	商　品　名	内　　容	販売開始時期
1	富士山世界遺産センター クリアファイル	当センターの特徴的な建築物と富士山をプリントしたクリアファイル	平成29年12月
2	富士山世界遺産センター ポストカード（４種）	当センターの特徴的な建築物や富士山をプリントしたポストカード	平成29年12月
3	正統展図録	平成30年度秋季特別展図録	平成30年９月※
4	富士山巡礼路須走口報告書	富士山須走口登山道の調査成果をまとめた報告書	平成30年※
5	富士すがた	当センター建築物の形を模したオリジナル最中	平成30年
6	谷文晁展図録	令和元年度冬季特別展図録	令和元年12月※
7	公式ハンドブック	当センター常設展の図録	令和２年６月
8	富士ひのき　コースター	当センター建築物に使用されている富士ひのきを活用したコースター	令和２年８月
9	富士ひのき　スマホスタンド	当センター建築物に使用されている富士ひのきを活用したスマホスタンド兼ペン立て	令和２年８月
10	富士ひのき　フォトフレーム	当センター建築物に使用されている富士ひのきを活用したフォトフレーム	令和２年９月
11	ハイブリッド狩野派展図録	令和２年度秋季特別展図録	令和２年10月
12	ポップアップメモ	当センターの特徴的な建築物と富士山をプリントしたメモ帳	令和２年12月
13	マグネットクリップ	当センターオリジナルふじっぴーをプリントしたマグネットクリップ	令和２年12月
14	富士山巡礼路大宮・村山口報告書	富士山大宮・村山口登山道の調査成果をまとめた報告書	令和３年４月
15	富士山表口の歴史と信仰展図録	令和３年度富士宮市共催展図録	令和３年７月
16	家康＋富士山展図録	令和３年度秋季特別展図録	令和３年10月
17	富士三保清見寺図屏風 一筆箋	センター所蔵品の屏風を用いた一筆箋。	令和３年10月

No	商　品　名	内　　容	販売開始時期
18	富士三保清見寺図屏風 クリアファイル	センター所蔵品の屏風を用いたクリアファイル	令和３年10月
19	士たちの富士山展図録	令和４年度秋季特別展図録	令和４年10月
20	谷文晁　富士山真景全図（1795年）ポストカード　２種	センター所蔵品の絵画を用いたポストカード	令和４年10月
21	公式ハンドブック（英語版）	当センター常設展図録の英語版	令和５年７月
22	富士山　藝術の源泉展図録	令和５年度特別展図録	令和６年１月

※３、４、６の商品は、令和２年６月に受付での販売からミュージアムショップでの販売へ変更した。





4-4 報道実績

1 概　要

静岡県富士山世界遺産センターは開館から６年目を迎え、施設紹介や企画展開催などの内容は継続して、新聞報道や県内ニュースや情報番組によるテレビ報道、旅行雑誌など多方面にて紹介されてきた。

特に、富士山世界遺産登録10周年記念国際シンポジウム「世界の聖なる山と富士山」は、新聞やテレビで大きく取り上げられ、広く報道された。

報道実績一覧表【センター独自集計による】

	新聞	テレビ（県内ニュース）	テレビ（その他）	雑誌	合計
2023年４月	4	0	0	0	4
2023年５月	2	1	3	2	8
2023年６月	5	6	0	4	15
2023年７月	3	2	0	1	6
2023年８月	4	2	1	0	7
2023年９月	1	0	2	1	4
2023年10月	2	1	0	0	3
2023年11月	1	0	0	0	1
2023年12月	1	0	1	2	4
2024年１月	2	1	0	1	4
2024年２月	0	2	2	1	5
2024年３月	0	1	0	3	4
合計	25	16	9	15	65

※テレビ（その他）は、県内ニュースを除く県内情報番組及び全国番組での放映回数

富士山世界遺産10年

霊峰不変 価値探究し発信

インタビュー

県富士山世界遺産センター館長　遠山敦子氏

富士山の世界文化遺産登録に尽力し、2017年12月の県富士山世界遺産センター（富士宮市）の開設時から館長を務める遠山敦子氏が13日、同センターで静岡新聞社など報道各社の共同インタビューに応じた。世界遺産登録10年の歩みを「霊峰の存在自体に変化はなくても、人々の感情は大きく育ったと評し、富士山の価値を後世に引き継ぐために同センターの研究・発信機能をさらに高めていく考えを述べた。

―同センターの意義とこれまでの成果は。

「研究と発信を通して山の価値を守っていくための重要な拠点。設立5年で、谷文晁ら多くの有名画家が富士山を題材に多数の作品を残していたことや、徳川家にとっての富士山の位置付けが研究で明らかになってきた。未開な巡礼路の調査にも大きな進歩がある。これからは世界の山々との比較や保全管理の情報交換など、研究視点をグローバルに広げて価値を考えていく段階に入るだろう」

―世界遺産登録10年を経て、見えてきた課題は。

「登山者の多くが御来光が目当てであり、周辺の構成資産を巡る機運を高めるのは難しい。山を制覇せんとする欧州的アルピニズムが先行しているのではないか。富士山は歴史や美観、自然環境の総合的な価値が評価されてきた。価値を探究し広めるというセンター本来の使命を追求することは登山以外の魅力のPRに直結する。マナー違反も顕在化する中、レジャー気分の登山者の意識を変えていけると考える」

―10年の節目となるこの1年に臨む姿勢を。

「開館5年のうち3年は新型コロナウイルスまん延の影響で来館者が落ち込んだが、ことしは世界遺産登録10周年と行動制限解除が重なって来訪者は増える。住民ガイドの活動を支え、地域のイベントに協力したい。富士山を愛する人々と共に霊峰を探究していく」

（聞き手＝富士宮支局・国本啓志郎）

とおやま・あつこ　元文部科学相。文化庁長官、富士山世界文化遺産学術委員長などを歴任。静岡高、東大卒。84歳。

2023年６月22日　静岡新聞

富士山世界遺産の価値 広く発信

県富士山世界遺産センター 10周年記念国際シンポ

あいさつする遠山館長

県富士山世界遺産センター主催、東アジア文化都市2023県認証事業の富士山世界遺産登録10周年記念国際シンポジウムが1日、ロゼシアターで開かれた。2日間にわたって開かれる同シンポジウムの初日は、元ユネスコ世界遺産センター長のメヒティルド・ロスラーさんが基調講演を行ったほか、地学、芸術文化などの専門家による講演が行われた。2日は午前10時から講演、パネルディスカッションなどが行われる。

富士山の世界文化遺産登録10周年を記念し、今後の富士山の保全管理や世界遺産としての顕著な普遍的価値について広く発信することを目的に開かれた。

開会式では同センターの遠山敦子館長があいさつに立ち、「富士山は古くから日本人の心のふるさとであり、美しく雄大な姿は憧れと尊崇の対象です。海外から訪れた人にとっても美しい憧れの山。今回シンポジウムでは世界の〝聖なる山〟について語っていただきます。世界の中からの富士山のことを考え、聖なる山の保全をいかにしていくかのきっかけがこのシンポジウムとなれば」と述べた。

また、川勝平太県知事は、富士山の歴史や日本文化の中でいかに崇高な山とされてきたかなどを訴え、「日本人にとって富士山は聖なる山。このシンポジウムがさまざまなことを考える契機になってほしい」と述べた。

講演するロスラーさん

基調講演ではロスラーさんが「世界遺産とは聖なる山」と題して、ユネスコでどのような基準で世界自然・文化遺産が登録されているかや、世界各国で世界遺産に登録されている山のほとんどが、原住民や地域の人々が聖地として崇め、大切にしてきた場所であることを写真などとともに紹介。

文化的価値については「山に文化の姿が見られないというメンバーもおり、何度も議論されてきた。70年代に登録されたもの、例えばエベレストなどは自然遺産となっているが、この山も現地の人にとって聖地であり、興味深い文化が今もなお続けられていることは大きな文化的価値がある」など、聖地や聖なる山の価値について語った。

また、世界遺産に登録された数多くの聖なる山も、オーバーツーリズムや気候変動などの課題があることを示した。

午後には慶應義塾大学の鈴木正崇名誉教授、筑波大学の稲葉信子名誉教授、トリノ大学歴史学部のパオロ・コッツォ教授、同センターの松島仁教授、大高康正教授がそれぞれ研究成果などを発表した。

2日は、ニュージーランド政府自然保護省でマオリの土地保全担当官として活動しているコニー・ノーゲートさん、トンガリロ国立公園のマオリ族首長、テナエヘ・ワニコウさん、元中国イコモス副委員長の郭旃さんが講演。ロスラーさん、鈴木さんらによるパネルディスカッションが行われる。

参加無料。希望者は直接、会場へ。

2023年７月２日　岳南朝日新聞

「聖なる山」「対話する存在」

富士で シンポ、保全へメッセージ

富士山 世界遺産10年

富士山世界遺産登録10周年記念国際シンポジウム「世界の聖なる山と富士山」（県富士山世界遺産センター主催、静岡新聞社・静岡放送後援）は2日目の2日、富士市のロゼシアターでパネル討論などを行い、山の保全や文化や歴史について意見を交わした。

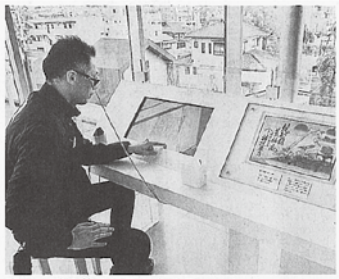
メヒティルド・ロスラー元ユネスコ世界遺産センター長や松島仁県富士山世界遺産センター教授らが登壇した。各国の山が育む自然や景観、芸術に関する多角的な研究の事例を共有し「富士山は生きていて、常に対話を続ける存在」「文化や歴史を深く学び、聖なる山を愛してほしい」などとメッセージを述べた。

世界遺産に登録された山に関する講演は、現地の特徴的な保全の姿に焦点を当てた。ニュージーランドのトンガリロ国立公園は同センターの井上卓哉教授らが解説し、先住民マオリが聖地とした豊かな自然や神々の伝説を取り上げた。

郭旃・元中国イコモス副委員長は中国の五聖山を例に、王朝の支配者が権力を守るために山の聖性を利用してきた歴史を解説した。一方で最も崇敬される泰山が、ロープウエーなどの開発や商業化で文化が損なわれつつある現状にも触れた。

富士山の保全などについて意見を交わすパネリスト＝2日午後、富士市のロゼシアター

2023年７月３日　静岡新聞



富士山麓の暮らしを紹介するコーナー＝富士宮市の県富士山世界遺産センター

富士山麓 暮らし紹介

常設展 一部変更

富士宮・世界遺産センター

富士宮市の県富士山世界遺産センターは19日までに、常設展を一部変更した。富士山の恵みを受ける麓の暮らしを紹介する。

3階の「受け継ぐ山」コーナーに、画像を立体的に見られる機械を設置した。赤色と青色の眼鏡を通して画像を見ると、1000年前後に撮影された富士登山の様子などが3Dで楽しめる。

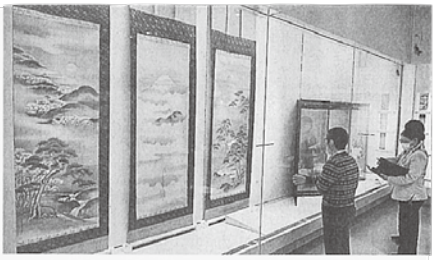
富士山の湧水を生かし現代にも息づく産業も取り上げ、茶業や製紙業、養鱒業の写真を展示した。

同センターの井上卓哉准教授（民俗学・文化人類学）は「明治から昭和初期にかけて人々が富士山をどう見ていたのか紹介する」と話した。

2023年12月20日
静岡新聞

幕末から富士山の象徴 歴史たどる

世界遺産センターで特別展



明治期に作られた掛け軸「住吉富士吉野図」＝富士宮市の県富士山世界遺産センター

富士宮市の県富士山世界遺産センターで18日から、世界文化遺産登録10周年記念特別展「富士山 藝術の源泉」後期展が始まる。幕末から明治時代にかけて、富士山が将軍家の象徴から天皇の象徴に移った歴史をたどる。2月12日まで。

明治20年代に作られた4作品を新たに展示した。嘉仁親王（後の大正天皇）に献上された国内最大級の三幅対掛け軸「住吉富士吉野図」は、幕府御用絵師の狩野派から帝室技芸員に任命される狩野永悳立信（かのうえいとくたちのぶ）らが手がけた。霊峰の手前には雲海のみが描かれ、神聖で不可侵な象徴であることが表現されている。

同センターの松島仁教授（美術史）は大日本帝国憲法を引用し、神聖にして侵してはならない天皇を富士山と重ねたとみる。その上で「天皇が国だった時代で、日本の象徴は富士山という印象が生まれ始めた時代」と分析する。

2024年１月18日　静岡新聞

狩野派画家に思いはせ

富士山世界遺産センター 特別展に合わせて公開講座

講話に耳を傾ける受講者

静岡県富士山世界遺産センターは21日、開催中の特別展に合わせ公開講座「幕末明治、政治・外交史のなかの〝富士山〟」を同センターで開いた。市内外から約30人が受講し、象徴、芸術の源流としての富士山図に理解を深める。

講座では、同展を監修した松島仁教授と皇居三の丸尚蔵館研究員の田中純一朗さん、オンラインでフランス国立東洋言語文化大学のエステル・ボエール教授の3人が講師を務めた。

松島教授は「神々の黄昏（たそがれ）―幕末・明治の政治・外交」を開催している。幕末、明治に活躍した狩野派画家による富士山図を展示し、近代黎明（れいめい）期における富士山イメージの意義を再検証するとともに、芸術の源泉としての価値を再確認していく。

田中さんは「狩野永悳（えいとく）立信―最後の奥絵師にして最初の帝室技芸員」を、ボエール教授は「1860年代（幕末）、幕府がフランスやヨーロッパ諸国に贈った外交贈呈品―再発見の段階」をそれぞれ主題に講話。松島教授は同展を監修したことから、展示でも表現している象徴としての富士山図の移り変わりを、ボエール教授は自身が発見したフランス、フォンテーヌブロー宮殿が所蔵する、日本から献上された掛け軸「富士春景図」をポイントに、当時の政治的背景や外交贈呈品の運命の比較などを展開した。

田中さんはこれらの作品を描いた、狩野永悳立信の人物像に注目。華やかに活躍した奥絵師としての時代と、将軍から天皇へ政権が返上され落剥（らくはく）した時代を対極に比較し、400年続いた歴史を誇る狩野派だからこそ描くことのできた作品、地位の転落から帝室技芸員として輝いた姿を語った。

2024年１月25日　岳南朝日新聞

4-5 来館者アンケート結果

1 概　要

来館者の動向、評価等をモニタリングするためアンケートを実施した。

2 実施結果

（1）第一回

・日本語によるアンケート

○来館日　平成30年１月29日～２月12日
15日間（平日10日間・土日休日５日間）

○総人数　420人（男191人・女229人）

・英語によるアンケート

○来館日　平成30年５月８日～５月31日
24日間（平日18日間・土日休日６日間）

○総人数　68人（男43人・女25人）

（2）第二回（日本語・英語によるアンケートを実施）

○来館日　平成30年９月20日～11月13日
54日間（平日36日間・土日休日18日間）

○総人数　436人（男202人・女234人）

（3）第三回（日本語・英語によるアンケートを実施）

○来館日　令和元年10月１日～11月30日
59日間（平日40日間・土日休日19日間）

○総人数　167人（男85人・女80人）

（4）第四回（日本語によるアンケートを実施）

○来館日　令和２年10月１日～11月30日
59日間（平日40日間・土日休日19日間）

○総人数　103人（男57人・女46人）

（5）第五回（日本語によるアンケートを実施）

○来館日　令和３年11月１日～12月26日
51日間（平日33日間・土日休日18日間）

○総人数　118人（男62人・女56人）

（6）第六回（日本語によるアンケートを実施）

○来館日　令和４年10月25日～12月26日
55日間（平日35日間・土日休日20日間）

○総人数　418人（男191人・女225人・回答しない２人）

（7）第七回（日本語・英語によるアンケートを実施）

○来館日　令和５年10月24日～12月26日

57日間（平日37日間・土日休日20日間）

○総人数　1,203人　（男580人・女607人・回答しない16人）

うち日本語　964人（男463人・女492人・回答しない９人）

うち英語　　239人（男117人・女115人・回答しない７人）

＊第一回から第五回までは紙で、第六回からは来館者のスマートフォンで二次元コードを読み取っていただき、グーグルフォームによりアンケートを実施した（スマートフォンをお持ちでない方には紙アンケートを提供した）。

3　各回比較結果

第七回以降は日本語アンケート結果（以下「(日)」）・英語アンケート結果（以下「(英)」）をそれぞれ別に示す。

○年齢構成

（日）40代、50代及び60代で全体の65％を占めた。

（英）20代、30代及び40代で全体の73％を占め、（日）と比較して若い世代が来訪した。

	20歳未満	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
第一回	15％	５％	４％	９％	19％	24％	24％
第二回	17％	７％	５％	10％	５％	29％	28％
第三回	20％	４％	５％	８％	14％	24％	25％
第四回	31％	６％	３％	８％	14％	21％	17％
第五回	23％	９％	６％	11％	16％	14％	19％
第六回	23％	７％	11％	19％	24％	13％	３％
第七回（日）	６％	11％	11％	21％	27％	17％	７％
第七回（英）	２％	23％	32％	18％	11％	10％	４％

○居住地の区分

（日）令和５年５月に新型コロナウイルスが５類感染症に移行したことから、第六回よりさらに県境越えの移動が盛んになり、県外からの来館割合が増加したと考えられる。

	国外	県外	県西部	県中部	県東部	内地元二市
第一回	－	17％	８％	28％	47％	（26％）
第二回	８％	31％	13％	20％	28％	（17％）

	国外	県外	県西部	県中部	県東部	内地元二市
第三回	13%	45%	3 %	14%	24%	(14%)
第四回	−	55%	10%	18%	15%	(8 %)
第五回	−	42%	24%	16%	17%	(15%)
第六回	−	75%	6 %	8 %	11%	−
第七回（日）	−＊1	82%	3 %	7 %	8 %	−

・県外の内訳

（日）関西からの割合が急減したのは、第六回に外れ値があったためである。今回は、関東、東海、関西が第五回目までと同様の傾向が見られたが、北陸甲信は減った。

	北海道・東北	関東	東海	北陸甲信	関西	中国・四国	九州
第一回	4 %	48%	26%	4 %	7 %	6 %	4 %
第二回	1 %	53%	16%	11%	13%	7 %	0 %
第三回	1 %	44%	20%	15%	11%	4 %	5 %
第四回	−	51%	30%	4 %	14%	−	2 %
第五回	4 %	43%	18%	16%	14%	0 %	4 %
第六回	1 %	32%	19%	4 %	42%	1 %	1 %
第七回（日）	5 %	42%	21%	7 %	17%	3 %	6 %

県別上位　愛知県13%、東京都12%、神奈川県11%、大阪府 6 %

*1　第七回（英）　国外の内訳

（英）アジアからの来館者が 4 分の 3 弱を占めた。北米及び欧州は各 1 割であった。

	アジア	大洋州	北米	中南米	欧州	中東	アフリカ
第七回	72%	7 %	10%	0 %	10%	0 %	1 %

国別上位　韓国16%、タイ14%、シンガポール13%、台湾12%、米国 9 %

○センターまでの交通手段（複数回答可）

（日）質問項目や回答数を変更したが、自家用車での来館割合が最も高く、列車による来館が次ぐという傾向は変わっていない。

（英）４割超の「自家用車」にはレンタカーが含まれると考えられる。新幹線・在来線の利用者も36％と高い

	新幹線	在来線	路線バス	観光バス	車	徒歩	その他
第一回	４％	10％	０％	５％	78％	６％	１％
第二回	６％	11％	４％	29％	52％	６％	４％
第三回	11％	19％	４％	26％	42％	６％	13％
第四回	７％	15％	３％	14％	54％	６％	２％
第五回	８％	10％	２％	11％	63％	６％	０％

（回答を１つに変更）

	新幹線・在来線	路線バス	観光バス	自家用車	徒歩	その他
第六回	21％	２％	13％	58％	４％	２％
第七回（日）	18％	１％	９％	66％	２％	４％
第七回（英）	36％	３％	11％	42％	７％	１％

○来館回数

（日）初めての来館割合が引き続き高い一方、４回を超える来館が３％存在する。

（英）日本語アンケート回答者より「初めて」の割合が高く96％にのぼる。

	初めて	２回目	３回以上
第二回	89％	８％	３％
第三回	84％	10％	６％
第四回	86％	７％	６％
第五回	77％	８％	14％

（回答項目を変更）

	初めて	２～３回	４～５回	６回以上
第六回	87％	９％	２％	２％
第七回（日）	87％	10％	２％	１％
第七回（英）	96％	３％	１％	０％

○センターの認知（複数回答可）

（日）ネット（インターネット）による認知が45％と引き続き多いが、その内訳を見ると、センター公式ホームページの寄与度が26％と最も高い。また、センター以外のウェブサイトも12％ある一方、公式フェイスブック・ツイッターの割合は高くない（１％前後）。なお、インスタグラムは５％ある。他に、口コミ（「知人」）の割合が伸びている。

（英）ネットによる認知が77％と圧倒的で、センター公式ホームページがそのうち32％を、センター以外のホームページが20％、インスタグラムが17％となっている。

	新聞	雑誌	ネット	テレビ	ラジオ	知人	その他
第一回	41％	７％	13％	45％	４％	20％	13％
第二回	25％	９％	14％	36％	３％	25％	15％
第三回	15％	16％	17％	30％	３％	25％	14％
第四回	12％	7％	25％	22％	２％	17％	15％
第五回	10％	10％	22％	19％	１％	20％	18％
第六回	３％	10％	45％	11％	１％	24％	25％
第七回(日)	２％	11％	45％	９％	０％	32％	20％
第七回(英)	０％	４％	77％	３％	０％	24％	23％

○来館構成

（日）家族での来館が過半を占める状況が続く中、友人との来館が増えている。

（英）傾向は（日）と似通っているが、「一人」「友人グループ」の割合がやや高め。

	一人	家族	友人グループ	団体	その他
第一回	12％	63％	19％	６％	－
第二回	12％	46％	15％	27％	－
第三回	11％	46％	22％	21％	－
第四回	17％	53％	12％	17％	－
第五回	18％	50％	23％	8％	－
第六回	16％	54％	12％	16％	２％
第七回（日）	11％	58％	21％	８％	２％
第七回（英）	15％	51％	25％	８％	１％

○今回は県内に御宿泊の予定はありますか。

（日）先述した県外からの来館者増に伴ってか、県内に滞在する来館者が大幅に増加した。

（英）日本語アンケート回答者と比べて「有」の割合が高い。

	有	無
第一回	11％	89％
第二回	24％	76％
第三回	31％	69％
第四回	46％	52％
第五回	35％	63％
第六回	38％	62％
第七回（日）	62％	38％
第七回（英）	77％	23％

○他の立ち寄り場所（複数回答）

（日）センターから徒歩圏内の浅間大社の比率は変わらず高いほか、地元グルメのやきそばと組み合わせての来訪も引き続き３割あった。

（英）浅間大社、富士宮やきそばの店が多いのは同様だが、「その他」40％のうち約半数が「富士山（五合目など）」となっている。

	浅間大社	白糸の滝	朝霧高原	富士宮 やきそばの店	その他
第三回	55％	27％	16％	－	10％
第四回	42％	29％	９％	－	20％
第五回	50％	17％	19％	－	15％
第六回	67％	17％	10％	28％	34％
第七回（日）	65％	19％	12％	31％	36％
第七回（英）	46％	17％	３％	25％	40％

○センターの滞在時間

（日）約８割の来館者が30分から１時間半程度の滞在となっている傾向は同じ。

（英）（日）より滞在時間が長めの傾向がうかがえる。

	30分未満	30分～ １時間未満	１時間～ １時間半未満	１時間～ ２時間未満	２時間以上
第六回	８％	54％	25％	９％	４％
第七回（日）	７％	50％	32％	８％	３％
第七回（英）	２％	42％	42％	10％	４％

○センターを訪れた理由（複数回答）

（日）４位は「世界遺産に興味があったから」で17％、５位は「家族、友人に誘われたため」で14％、６位は「設計者に興味があったから」で７％であった。

（英）４位は「建物や外観に興味があったから」で25％、５位は「設計者に興味があったから」で24％、６位は「企画展示に興味があったから」で14％であった。

	１位	２位	３位
第六回	富士山に興味が あったから　54％	建物や外観に興味が あったから　33％	常設展示に興味が あったから　28％
第七回（日）	富士山に興味が あったから　59％	建物や外観に興味が あったから　35％	常設展示に興味が あったから　28％
第七回（英）	富士山に興味が あったから　87％	世界遺産に興味が あったから　29％	常設展示に興味が あったから　26％

○今回の訪問で最も印象に残ったもの

（日）４位はセンターの建物や外観で７％、５位は荒ぶる山、美しき山で各５％と続いた。

（英）２位に「美しき山」がランクインしているのが特徴的である。４位は「映像シアター」で９％、５位は「センターの建物や外観」で８％と続いた。

	１位	２位	３位
第六回	登拝する山 35％	展望ホールから見た 富士山　20％	映像シアター 16％
第七回（日）	登拝する山 36％	展望ホールから見た 富士山　19％	映像シアター 17％
第七回（英）	登拝する山 28％	美しき山 17％	展望ホールから見た 富士山　16％

4-6 施設管理条例・規則

○静岡県富士山世界遺産センターの設置、管理及び使用料に関する条例

平成29年10月24日
条例第35号

静岡県富士山世界遺産センターの設置、管理及び使用料に関する条例をここに公布する。

静岡県富士山世界遺産センターの設置、管理及び使用料に関する条例

（趣旨）

第１条　この条例は、静岡県富士山世界遺産センターの設置、管理及び使用料に関し必要な事項を定めるものとする。

（設置）

第２条　世界遺産富士山（静岡県世界遺産富士山基本条例（平成27年静岡県条例第31号）第２条第１号に規定する世界遺産富士山をいう。以下同じ。）の有する顕著な普遍的価値（同条第３号に規定する顕著な普遍的価値をいう。）についての県民の理解を深めることにより、当該顕著な普遍的価値を後世に引き継ぐこと及び県民文化の向上に寄与することを目的として、静岡県富士山世界遺産センター（以下「センター」という。）を富士宮市に設置する。

（開館時間）

第３条　センターの開館時間は、午前９時から午後５時まで（７月及び８月にあっては、午前９時から午後６時まで）とする。ただし、知事は、特に必要があると認めるときは、これを変更することができる。

（休館日）

第４条　センターの休館日は、次のとおりとする。ただし、知事は、特に必要があると認めるときは、臨時に開館し、又は休館することができる。

⑴　毎月の第３火曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日に当たるときは、その日後においてその日に最も近い日曜日、土曜日又は同法に規定する休日でない日）

⑵　12月27日から翌年の１月３日までの日

（観覧料）

第５条　センターに展示されている世界遺産富士山に関する資料等を観覧しようとする者は、別表第１に定める額の観覧料を納めなければならない。

（特別観覧）

第６条　知事は、センターに収蔵されている世界遺産富士山に関する資料等について学術研究等のために必要があると認めるときは、当該資料等の模写、模造、撮影等（以下「特別観覧」という。）をしようとする者に対して、当該特別観覧を承認することができる。

２　前項の規定による承認には、センターの管理のために必要な限度において条件を付することができる。

（特別観覧料）

第７条　特別観覧をしようとする者は、別表第２に定める額の特別観覧料を前納しなければならない。

（観覧料等の減免）

第８条　知事は、特別の理由があると認めるときは、観覧料又は特別観覧料（以下「観覧料等」という。）を減免することができる。

（観覧料等の不還付）

第９条　既納の観覧料等は還付しない。ただし、知事が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

（委任）

第10条　この条例の施行に関し必要な事項は、規則で定める。

附　則

この条例は、平成29年12月23日から施行する。

別表第１（第５条関係）

⑴　常設展示

利用区分	観覧料
個人	300円
団体	１人につき　200円

備考

１　個人とは、満15歳以上の者であって、中学校、高等学校及び大学の在学者並びにこれらに準ずる者以外のものをいう。

２　団体とは、20人以上をいう。

３　企画展示と常設展示を併せて観覧する場合の常設展示の観覧料は、減免することができる。

⑵　企画展示

1,500円を限度として知事がその都度定める額

別表第２（第７条関係）

利用区分	特別観覧料
模写	１点１日につき　2,000円
模造	１点１日につき　2,000円
撮影	１点１回につき　4,000円
熟覧	１点１日につき　1,000円
原板使用	１点１回につき　3,000円

○静岡県富士山世界遺産センターの設置、管理及び使用料に関する条例施行規則

平成29年10月24日

規則第41号

静岡県富士山世界遺産センターの設置、管理及び使用料に関する条例施行規則をここに公布する。

静岡県富士山世界遺産センターの設置、管理及び使用料に関する条例施行規則

（趣旨）

第１条　この規則は、静岡県富士山世界遺産センターの設置、管理及び使用料に関する条例（平成29年静岡県条例第35号。以下「条例」という。）の施行に関し必要な事項を定めるものとする。

（入館時間）

第２条　静岡県富士山世界遺産センター（以下「センター」という。）の入館時間は、午前９時から午後４時30分まで（７月及び８月にあっては午前９時から午後５時30分まで）とする。ただし、知事は、特に必要があると認めるときは、これを変更することができる。

（観覧手続）

第３条　常設展示又は企画展示（以下「常設展示等」という。）を観覧しようとする者は、条例第５条の観覧料（以下「観覧料」という。）を納付し、観覧券の交付を受けなければならない。ただし、知事が認めた団体については、観覧後に観覧料を納めることができる。

（特別観覧手続）

第４条　条例第６条第１項に規定する特別観覧（以下「特別観覧」という。）をしようとする者は、あらかじめ、様式第１号による特別観覧承認申請書を知事に提出しなければならない。

２　知事は、特別観覧を承認したときは、特別観覧承認書を当該申請をした者に交付するものとする。

（観覧料等の減免）

第５条　条例第８条の規定による観覧料等（同条に規定する観覧料等をいう。以下同じ。）の減免（以下「観覧料等の減免」という。）は、次の各号のいずれかに該当する場合に行うものとし、その減免

する額は、当該各号に定める額とする。

⑴　身体障害者手帳、療育手帳又は精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者（以下「障害者」という。）が常設展示等を観覧するとき　観覧料の全額

⑵　障害者が常設展示等を観覧するときに現に付き添って介護を行っている者（障害者１人につき１人に限る。）が常設展示等を観覧するとき　観覧料の全額

⑶　70歳以上の者が常設展示を観覧するとき　観覧料の全額

⑷　70歳以上の者が企画展示を観覧するとき　観覧料の２分の１の額（当該額に100円未満の端数があるときは、これを100円に切り上げた額）

⑸　幼稚園、小学校、中学校、高等学校又は大学の教育課程に基づく教育活動（これらに準ずるものを含む。）として幼児、児童、生徒、学生等が企画展示を観覧するとき　観覧料の全額

⑹　幼稚園、小学校、中学校、高等学校又は大学の教育課程に基づく教育活動（これらに準ずるものを含む。）として常設展示等を観覧する幼児、児童、生徒、学生等を引率する者が常設展示等を観覧するとき　観覧料の全額

⑺　その他知事が特別の理由があると認めるとき　知事が別に定める額

２　観覧料等の減免を受けようとする者は、あらかじめ、様式第２号による観覧料等減免承認申請書を知事に提出し、その承認を受けなければならない。ただし、前項第１号から第４号までのいずれかに該当するとき、又は前項第７号に該当する場合であって知事がその必要がないと認めるときは、この限りでない。

３　知事は、観覧料等の減免を承認したときは、観覧料等減免承認書を当該申請をした者に交付するものとする。

（観覧料等の還付）

第６条　条例第９条ただし書の規定による観覧料等の還付は、次の各号のいずれかに該当する場合に行うものとする。

⑴　観覧又は特別観覧をしようとする者の責めに帰することができない理由により観覧又は特別観覧ができなくなったとき。

⑵　その他知事が必要と認めるとき。

２　観覧料の還付を受けようとする者は、観覧券を知事に提出しなければならない。

３　条例第７条の特別観覧料（以下「特別観覧料」という。）の還付を受けようとする者は、様式第３号による特別観覧料還付申請書を知事に提出しなければならない。ただし、第１項第１号に掲げる場合は、この限りでない。

（委任）

第７条　この規則に定めるもののほか、センターの管理に関し必要な事項は、センターの長が別に定める。

附　則

この規則は、平成29年12月23日から施行する。

この規則は、令和３年４月１日から施行する。

静岡県富士山世界遺産センター　年報2023.4ー2024.3

2024年９月発行
編集・発行　静岡県富士山世界遺産センター
〒418-0067　静岡県富士宮市宮町5-12
ＴＥＬ 0544-21-3776
ＦＡＸ 0544-23-6800
印　　刷　文光堂印刷株式会社

静岡県富士山世界遺産センター